№10107

法學士江木衷著

現行法令論 全

明治廿年刊行

21-79

例言

一、此書ハ現行刑法第二篇以下ノ各罪ニ就キ學術上ヨリ其性質ヲ論述スルヲ目的トシ徒ニ字句ノ解釋ヲ事トシ又ハ實例比喩ノミヲ指示スルノ解釋法ヲ避ケタリト雖又爲メニ空漠タル立法論ニ渉ルコトナキヲ勉メ專ラ法理上萬般ノ場合ニ適用スルコトヲ得ヘキ原則ヲ解說セリ故ニ一言一句ニシテ往々數多ノ欵問ヲ裁斷セルモノナキニアラス初學ノ輩ニ在テハ特ニ此等ノ點ニ注意スルコトヲ要ス

二、然レトモ學術トシテ現行刑法ヲ論述スルニハ殊ニ二個ノ困難アルヲ覺ヘタリ一ハ法文ノ有形的若クハ形容的ノ文字ニ富ミ僅々一二ノ實例ニ適合スヘキ記事小說体ヲ爲シテ抽象的ノ思想ニ乏シク一ハ現時實際上ノ慣例往々理論ト矛盾スルモノアルニ在リ故ニ此等ノ場合

ニ於テハ先ツ學理ヲ説明シ而シテ後ニ此等ノ注目スヘキ要點ヲ指示セリ

三、刑法ノ學タル極メテ深遠ナリ予ノ淺識ヲ以テ其蘊奥ヲ盡スコト能ハス素ヨリ誤謬ノ見ナキヲ保セスト雖此書ノ草稿ハ倉富山田奥田諸君ノ校閲ニ係リ其ノ高論卓説ヲ得テ著者ノ短處ヲ補正シ正否ヲ明カニスルコトヲ得タルハ著者ノ大ニ謝スル所ナリ

明治二十一年五月

著者謹識

目錄

緒論

第一章　犯罪類別ノ方法　一

第二章　罪質區別ノ方法　一

第一篇　皇室ニ對スル罪

第一章　總説　一三

第二章　皇室ニ對スル國事犯　一三

第三章　皇室ニ對スル常事犯　一六

第二篇　國家ニ對スル罪

第一款　國事犯　二二

第一章　國事犯一般ノ性質　二五

各論　二五

第二章　內亂ニ關スル罪　二
第三章　外患ニ關スル罪　三二
第二款　外國ニ對スル罪　五一
第三款　官權ノ執行ニ抗スル罪　五五
第一章　官吏ノ職務ヲ妨害スル罪　六〇
第一節　抗命ノ罪　六〇
第二節　官吏侮辱ノ罪　六〇
第二章　囚徒逃走ノ罪　六六
第三章　罪人藏匿ノ罪　七〇
第四章　附加刑ノ執行ヲ逃ルヽ罪　七七
第五章　官ノ封印ヲ破毀スル罪　八四
第四款　政權ノ執行ニ抗拒スル罪　八七
第一章　立法議會ノ議事ヲ妨害スル罪　九〇
第二章　公選ノ投票ヲ僞ル罪　九〇
第五款　官吏瀆職ノ罪　九一
第一章　總說　九四
第二章　官吏公益ヲ害スル罪　九四
第三章　官吏人民ニ對スル罪　九八
第四章　官吏財產ニ對スル罪　一〇三
第三篇　社會ニ對スル罪　一一四
第一款　社會ノ靜謐ヲ害スル罪　一一七
第一章　兇徒聚衆ノ罪　一一七

第二章　人ノ住所ヲ侵ス罪　一二四
第三章　私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造スル罪　一三一
第二款　社會ノ危難ヲ釀成スル罪　一三二
第一章　放火失火ノ罪　一三二
第二章　決水ノ罪　一四一
第三章　船舶ヲ覆沒スル罪　一四五
第四章　社會ノ健康ヲ害スル罪　一四九
第五章　往來通信ヲ妨害スル罪　一五〇
第三款　商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪　一五七
第四款　公務ヲ行フコトヲ拒ム罪　一五九
第五款　公ケノ信用ヲ害スル罪　一六二
第一章　貨幣ヲ僞造スル罪　一六二
第一節　貨幣僞造變造ノ罪　一六二
第二節　僞造貨幣ヲ受取行使スル罪　一七六
第二章　文書僞造ノ罪　一七八
第三章　印章僞造ノ罪　一九四
第四章　免狀鑑札疾病證書僞造ノ罪　一九八
第五章　度量衡ヲ僞造スル罪　二〇一
第六章　身分ヲ詐僞スル罪　二〇二
第六款　風俗道義ヲ紊ル罪　二〇六
第一章　僞證ノ罪　二〇六
第二章　誣告ノ罪　二一六

第三章　賭博及ヒ富籤興行ノ罪　二二二
第一節　賭博罪　二二三
第二節　富籤興行ノ罪　二二六
第四章　猥褻姦淫重婚ノ罪　二二七
第一節　猥褻ノ罪　二二七
第二節　姦淫ノ罪　二三二
第三節　重婚ノ罪　二三八
第七款　宗教ニ關スル罪　二四一
第一章　宗教ヲ蔑如スル罪　二四一
第二章　死屍ノ毀棄及ヒ墳墓發掘ノ罪　二四二
第四篇　私人ニ對スル罪　二四九
第一款　生命ニ對スル罪　二四九
第一章　總說　二四九
第一節　殺人罪一般ノ性質　二四九
第二節　正當防衛　二五五
第三節　挑發　二六二
第二章　謀殺故殺ノ罪　二六六
第三章　自殺ニ關スル罪　二七三
第四章　過失殺　二七四
第五章　墮胎ノ罪　二七五
第二款　身體ニ對スル罪　二七九
毆打創傷ノ罪　二七九

第三款　自由ニ對スル罪　二八六
第一章　强迫ノ罪　二八六
第二章　逮捕監禁ノ罪　二九二
第三章　幼者老疾者ヲ遺棄スル罪　三〇〇
第四章　略取誘拐ノ罪　三〇三
第四款　名譽ニ對スル罪　三一〇
第五款　祖父母父母ニ對スル罪　三二一
第一章　祖父母父母ニ對スル通常罪　三二二
第二章　子孫奉養ヲ欠クノ罪　三二三
第六款　財産ニ對スル罪　三二三
第一章　竊盜ノ罪　三二三
第一節　盜罪ノ性質　三二三
第二節　盜罪ノ已遂及未遂　三三六
第三節　竊盜ノ種類　三三九
第一段　單純竊盜　三三九
第二段　踰越盜及ヒ僞鍵盜　三四〇
第三段　持兇器竊盜　三四三
第四段　際變竊盜　三四五
第五段　共同竊盜　三四五
第六段　田野盜　三四六
第七段　山林盜及ヒ河海盜　三四七
第八段　牛馬盜　三四八

第九段　親族盗　三四八
第十段　其他ノ窃盗　三五〇
第二章　受寄財産費用ノ罪　三五一
第三章　強盗罪　三五七
第一節　強盗罪ノ性質　三五七
第二節　強盗罪ノ種類　三五九
第四章　詐欺取財ノ罪　三六一
第一節　詐欺罪ノ性質　三六二
第二節　詐欺罪ノ種類　三七一
第五章　家資分散ニ關スル罪　三七七
第六章　贓物ニ關スル罪　三八一
第七章　遺失物埋藏物ニ關スル罪　三八五
第八章　財産毀損ノ罪　三九三
第五篇　違警罪　三九〇
第一章　總說　三九〇
第二章　刑典ニ認ノタル各種ノ違警罪　四〇三
第三章　刑典以外ノ違警罪　四〇九
參照書目　四一七

刑法各論

法學士 江木衷 著

緒論

第一章 犯罪類別ノ方法

歐洲諸國ノ刑法典ハ多クハ羅馬法律ニ淵源シ其類別次序モ亦羅馬法典ニ倣ヒ之ヲ公罪(Crimina publica)私罪(Delicta privata)ノ二種ニ大別スレトモ文化ノ發達進歩ト共ニ新性質ノ犯罪ヲ發生シ近世ニ至リテハ啻ニ之ヲ補ヒタル數多ノ犯罪ヲ發生シ以テ足ルコト能ハサルニ至レリ

公罪私罪ノ二種トスルヲ以テ足ルコト能ハサルニ至レリ抑モ羅馬法ノ所謂公法ナル者ハ只タ國家及ヒ宗教ニ屬スル事項ヲ包含シ其所謂私法ナル者ハ各人各個ニ屬スル事

プフター氏羅馬法論參照
ロエスレル氏著社會行政法第一

ロエスレル氏社會行政法第一巻第一九節

項ヲ包含スルニ過キスシテ其刑法ノ保護支配スル物體モ亦無形ノ一個人ナル國家ト有形ナル各私人ノ利益タルニ止マリ社會公共ノ利益ニ至リテハ當時ノ文化未タ之ヲ顧ミルノ度ニ達セサリシ語ヲ換ヘテ之ヲ云ハヽ羅馬法律ハ官ト私トアルコトヲ認ムルモ公アルコトヲ知ラサリシモノト謂フヘシ之ニ反シテ近世ニ於テハ學者ノ法律ヲ論スル國家社會及ヒ私人ノ三點ヨリ考察シ就中社會ニ屬スル法則ヲ犯スモノハ社會活動ノ大本ヲ破ルモノトナシ刑法ノ保護ヲ要スルコト尋常ノ私罪ヨリ尚ホ甚タ切ナリトセリ然ルニ未タ羅馬法ノ舊主義ヲ脫スルコト能ハサル法典ニ於テハ單ニ犯罪ヲ公私ノ二種ニ區分スルヲ以テ常ニ社會ニ對スル犯罪ヲ列序スルニ苦ミ或ハ之ヲ以テ私罪ノ中ニ加ヘ或ハ國家ニ對スル犯罪中ニ列スルモノ少シトセス我現行刑法ノ如キモ佛國法典ニ倣ヒ重輕罪ヲ大別シテ公益ニ關スルモノト身体財産ニ對スルモノトナシ社會ニ對スル犯罪ノ如キハ此二種中ニ混同配分セルノミナラス其他ノ分類種別ニ至リテモ亦予ナシテ決シテ學理ニ基キタルモノニアラサルコトヲ覺知スルニ足ラシメタリ今マ其ノ一二ノ例ヲ擧クレハ放火失火ノ罪決水ノ罪船舶ヲ覆沒スル罪等社會公共ノ危難ニ關スル罪ヲ以テ財産ニ對スル罪トナシ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪囚徒逃走ノ罪等國家ニ對スル罪、ト往來通信ヲ妨害スル罪人ノ住所ヲ犯ス

フオスタンエリー氏著佛國刑法論第二巻第二章乃至第八章

罪等社會ノ安寧ニ關スル罪トヲ混同シテ等シク之ヲ靜謐ヲ害スル罪ニ編入シ且ツ全ク生命身体自由名譽ノ四者ヲ混同シテ謀故殺即チ生命ニ對スル罪逮捕監禁ノ罪即チ自由ニ對スル罪誹毀罪即チ名譽ニ對スル罪ヲ以テ身体ニ對スル罪トセルニ至リテハ學理ヲ遠カルコト極メテ甚シ但シ身躰ノ文字ハ洋語ノ「ペルソン」(人ノ義)ヲ翻譯シタルモノト解スルニ於テハ敢テ之ヲ批難スルニ足ラスト雖陽昭ノ罪猥褻姦淫重婚ノ罪等風俗ヲ害スル罪ヲ以テ身躰ニ對スル罪ト同視セルノ甚シキニ至リテハ恐クハ理論ニ依テ之ヲ辯護スルノ道ナカルヘシ

余ハ專ラ學理ニ依リ學術トシテ我現行刑法ヲ論述セントスルモノナレハ犯罪ノ類別方法ニ至リテモ亦專ラ學理ニ基クヲ主トスト雖我刑典ノ順序ヲ全廢シ細節ニ至ルマテ盡ク之ヲ變更スルニ於テハ現行刑法ノ規定如何ヲ見ルノ不便アルヲ以テ細目ニ至テハ可成現行法律ノ順序ヲ採用シ只タ各節目ノ下ニ於テ之ヲ批評スルニ止メタリ而シテ予ノ採用セル順序ハ概ヲ博士ガイエル氏カ學理的ノ考案ニ出テタルモノト稍々相類似スト雖特ニ皇室ニ對スル罪ト違警罪トヲ以テ各々之ヲ一篇ト爲シタルカ如キハ全ク其趣ヲ異ニスルモノト云フヘシ故ニ予ハ各論ヲ大別シテ五篇ト爲シ第一皇室ニ對スル罪第二國家ニ對スル罪第三社會ニ對スル罪第四私人ニ對スル罪第五違警罪トセリ今

ホルツエンドルフ氏編纂法學通論中ガイエル氏著刑法論第九二六葉

マ其類別ノ要點ヲ舉クレハ左ノ如シ

山田評 皇室ニ對スル國事犯ハ之ヲ通常國事犯中ニ列シ皇室ニ對スル常事犯ヲ以特別ハテ如何ト

〔第一〕皇室ニ對スル罪　ハ特ニ之ヲ別罪トスルコトヲ要セス國家ニ對スル罪及ヒ私人ニ對スル罪等ノ中ニ排列スルコトヲ得ヘシト雖我現行刑法ハ皇室ニ對スル國事犯ト常事犯トヲ合同シテ之ヲ一節ト爲シタル故ニ予ハ便宜上特ニ皇室ニ對スル罪ノ一節ヲ設ケタルモノニシテ敢テ古代學者カ之ヲ以テ特別罪(Delictum exceptum)トセル舊主義ノ論理ニ因據シタルモノニアラサルナリ。

〔第二〕國家ニ對スル罪　ハ一個人タル國家ニシテ犯罪ノ物躰タル場合ヲ包含スルモノ即チ第一國事犯(內亂及外患ニ關スル罪)第二外國ニ對スル罪(第百三十三條及第百三十四條)第三官權ノ執行ニ抗スル罪(官吏ノ職務ヲ妨害スル罪官ノ封印ヲ破棄スル罪囚徒逃走ノ罪及ヒ附加刑ノ執行ヲ逃ル、罪)第四政權ノ執行ニ抗スルノ罪(公選ノ投票ヲ僞造スル罪)第五官吏瀆職ノ罪(並ニ第百七十七條)トス但シ官文書僞造貨幣僞造罪ノ如キハ政府ノ權ヲ害スルノ罪タルヲ以テ之ヲ國家ニ對スル犯罪中ニ列スルヲ可トスルノ學者ナキニアラスト雖是レ只外形上國家ノ權ヲ破ルモノニシテ其實躰上ニ於テハ社會ノ信用ヲ害スルノ罪タルニ過キストス

ベルヲル民諸刑法原論第三五一葉

〔第三〕社會ニ對スル罪　ハ社會公共ノ幸福安全ヲ害スル所ノ罪ニシテ第一社會ノ靜謐ヲ害スル罪(兇徒聚集ノ罪、私ニ

軍用ノ銃器ヲ製造スル罪及ヒ人ノ住居ヲ侵ス罪(第二公衆ノ危險ヲ生スル罪(放火失火決水ノ罪船舶覆沒ノ罪往來通信ヲ妨害スルノ罪及ヒ健康ヲ害スル罪)第三公ケノ風俗道義ヲ害スル罪(誣告、僞證、賭博、猥褻姦淫重婚ノ罪、死屍ヲ毀棄スルノ罪、風俗ヲ害スル罪及宗教ニ對スル罪)第四公ノ信用ヲ害スル罪(貨幣、官文書、私印私書、度量衡免狀鑑札ヲ僞造スル罪及ヒ身分詐稱ノ罪)第五公務ヲ行フヲ拒ム罪(第百七十七條ヲ除ク)第六商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪ヲ包含ス

(第四)私人ニ對スル罪　ハ第一生命ニ對スル罪(殺人罪第二身躰ニ對スル罪(毆打創傷)第三自由ニ對スル罪(逃捕監禁略取誘拐ノ罪等)第四名譽ニ對スル罪(誹毀罪)第五財產ニ對スル罪ヲ包含ス

(第五)違警罪　モ亦之ヲ分析詳說スレハ殆ト重輕罪ニ下ラサル數多ノ類別ヲ爲スコトヲ得サルニアラサルモ此等ノ犯罪タル、各地方ニ依リテ必スシモ同一ナラス且ツ極メテ輕微ノ刑ヲ以テ之ヲ處スルニ止マリ其目的トスル所モ亦行政警察ノ本旨ヲ貫徹スルノ保助タルニ過キサルヲ以テ余ハ之ヲ詳說スルノ勞ヲ避ケ單ニ之ヲ安寧警察營業警察衛生警察建築警察等ノ目的ニ出ツルモノニ類別シ只タ其大綱要目ヲ論述スルニ止マルベシ

第二章　罪質區別ノ方法

各罪ノ性質異同ヲ詳ニセントヽ欲セハ先ツ一般ノ犯罪構成

ノ元素ニ依リ一定ノ標準ニ基キ以テ彼此ノ犯罪ヲ比較スルコトヲ要スル而シテ其犯罪ノ元素ナル者ハ犯罪ノ主脉物脉手段及ヒ所爲ナレトモ一般ノ犯罪ニ普通ナル條件ハ已ニ汎論ニ於テ詳述シタル所ノ如クナルヲ以テ各罪ノ性質異同ヲ論スルニハ此四點ニ付キ特ニ其犯罪タルニ必要ナル條件ヲ考察スルニ過キサルヘシ設例ヘハ官吏收賂ノ罪ニ就テハ主脉ノ官吏タルヲ要シ盜罪ノ物脉ハ有形動產ニ限リ詐僞取財ハ汎ク有形無形ノ動產不動產ヲ包含シ誹毀罪ノ手段ハ公然ノ演說又ハ刊行ノ文書等ヲ出テス强盜ノ所爲ハ强取ニシテ遺失物ニ關スル罪ハ隱匿ニ成リ盜罪ノ所爲ニ就テハ特ニ惡意アルヲ要スルモ過失殺ハ故意アルヲ待タス又タ國事犯ノ所爲ハ豫備隱謀ヲ罪トシ未遂ノ時ヲ以テ已遂ト同シク論スル等各論ニ於テハ凡テ總則即チ汎論ニ論述シタル原則ノ適用ノ外尙ホ各罪ニ固有ナル主脉物脉手段及ヒ所爲（有意無意已遂未遂ノ所爲）ヲ論述スルニ過キサルナリ但シ總則ヲ適用シテ敢テ不可ナキ場合ト雖事ノ疑惑ヲ生シ又ハ學者ノ異論アルノ點ニ就テハ重復ヲ厭ハス特ニ之ヲ論述セルコト甚タ少シトセス是レ此書ハ學理ノ考究ヲ主トスルモノニシテ法典編纂ノ業ト全ク其趣ヲ異ニスルニ出ツルナリ

第一篇　皇室ニ對スル罪

第一章　總說

クニッシュキー氏著大逆罪論第一三九葉
ヘンケー氏著刑法必携第三卷第四二葉

皇室ニ對スル犯罪ハ其性質上ニ於テハ國事犯ニ屬スルモノト常事犯ニ屬スルモノトヲ包含セリ抑モ立君政躰ノ邦國ニ於テハ在位ノ君主ハ必ス國家ノ元首タルヘキモノニシテ君主ノ一身ハ即チ主權者ナリ君主ノ名譽ハ即チ主權者ノ名譽ナリ犯罪ノ目的ハ國事ニ關スルト否トヲ問ハス苟モ一國ノ君主タルコトヲ知リ之ヲ害スルトキハ其所爲タル直接ニ主權者ヲ害スルノ罪(Crimen majestatis)ニシテ其名譽ヲ損スルモノハ主權者ノ威嚴ヲ損スル不敬ノ罪(Crimen laesae veneration is)ナリ設ヒ嚴刑ヲ以テ此等ノ罪ヲ斷スル

モ之ヲ以テ一私人ニ對スルノ犯罪トスルコトヲ得ス現世紀ノ初メニ於ケル學者カ往々國事ノ目的ニ出ツルモノヽ外盡ク之ヲ常事犯ト論定セルカ如キハ今日學者ノ已ニ容レサル陳腐ノ說タルニ過キス蓋シ舊時ノ學者カ此誤見ヲ脫スルコト能ハサリシハ犯罪ノ目的ト故意トノ區別ヲ混同シ一國ノ君主タルコトヲ知リツヽ私怨ヲ以テ君主ヲ空フスルモノハ即チ主權者ヲ空フスルノ故意ヲ以テ其犯罪ヲ行フタルモノタルヲ知ラサルニ坐シタリ

之ニ反シ讓位ノ君主皇后皇太子及ヒ其他ノ皇族ノ如キハ在位ノ天皇ニ服從スルノ義務アル臣民ニシテ之ヲ主權者ト同視スルコトヲ得サレハ此等ノ皇族ニ對スル犯罪ハ常人ニ比シテ大ニ其刑ヲ加重スルハ兎モ角其罪質ニ至リテハ之ヲ常事犯ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス故ニ學理上ヨリシテ現行刑法ヲ論述スルニハ皇室ニ對スル犯罪ハ之ヲ國事犯ニ屬スルモノト常事犯ニ屬スルモノトノ二種ニ區別セサルヲ得ス

奥田評注意周到

然レトモ在位ノ君主ニ對スル危害及ヒ不敬ノ罪ヲ以テ國事犯ニ屬スルモノトスルトキハ犯罪人引渡條約ニ依リ外國政府ニ對シ外國ニ逃走シタル犯者ノ引渡ヲ請求スルコト能ハサルカ如キ感ナキ能ハスト雖一方ニ於テハ萬國ノ共ニ奉スヘキ國際法ハ各國ニ固有ナル憲法政體ノ如何ニ拘泥スルコト能ハサルヲ以テ國際法上ニ於テハ條約文ノ

スチーブン氏著刑法史第二卷第七一葉
フヒオール氏著刑事國際法第三章ハレック氏著國際法第一卷第一九五葉

倉富評
國家ノ自斷權ナ侵害スルモノニ非レハ國事犯トスルハ可ラサル第二篇ニ於テ著者ノ詳論スル所ナリ皇室ニ對スル不敬ノ罪ハ如何ナル點ニ於テ自斷權ナ侵害ス可キモノトス爲ス可キヤ

解釋モ自ラ其方法ヲ異ニスルノミナラス又タ一方ニ於テハ特約ヲ以テ此等ノ場合ヲ規定スルコト甚タ難カラサルヲ以テ敢テ此重大ナル犯者ノ引渡ヲ請求スルコト能ハサルモノニアラサルナリ

第二章　皇室ニ對スル國事犯

皇室ニ對スル國事犯ハ在位ノ天皇ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルノ罪及ヒ不敬ノ罪トス(第百十六條及ヒ第百十七條)今マ之ヲ分析説明スルコト左ノ如シ

〔主體〕此罪ヲ犯スコトヲ得ヘキモノハ日本皇室ニ對シ誠忠(アレジアンス)ヲ盡スノ義務アルモノニ限レリ即チ日本人民及日本ニ滯在スル外國人是レナリ故ニ外國ニ在ル外國人外國ヨリ又ハ外國ノ行在所ニ於テ此罪ヲ犯スモ敢テ我刑法ノ問フ所ニアラスト雖其犯人ニシテ我邦内ニ來ルトキハ我刑法ヲ以テ之ヲ處斷スルコトヲ得ヘキハ已ニ汎論ニ於テ之ヲ詳述セリ

〔物體〕此犯罪ノ物體タルヲ得ヘキモノハ在位ノ天皇ノ生命身體自由及ヒ名譽トス即チ

(イ)在位ノ天皇タラサルヘカラス、太上天皇三后皇太子及ヒ皇族ニ對スル罪ハ常事犯ニシテ國事犯ニアラス○攝政ハ君主自ラ政務ヲ行フ能サルトキ假ニ國政ヲ行フモノナルカ故ニ攝政ニ對スル罪ハ啻ニ國事犯ニアラサルノミナラス攝政ノ皇族ニアラサル以上ハ全ク皇室ニ對

モール氏著國家學通論純理憲法第一章
ダルベル氏著獨逸國法原理第八九葉

スル犯罪トスルコトヲ得ス○簒位ノ君主ハ法律上正當ノ主權者ニアラサルヲ以テ之ニ對スル國事犯ナキハ當然ナリ何トナレハ簒位ノ君主ハ適法ナル即位ノ條件及ヒ在位ノ條件即位ノ條件トハ君主ノ崩御讓位廢位等ニテ君位ノ欠ケタルトキ又ハ君位相續法ニ依リ當然君主ノ後君主タルノ資格ノ喪失スルヲ云ヒ在位ノ條件トハ即位ノ後尚位ニタル邦國ニ於テハ任期滿限ノ後尚位ニ在ルモノハ簒位ヲ以テ論スルノ類ナリヲ欠キタルモノニシテ多クハ國法ヲ以テ刑スヘキ犯罪者タリト雖國家騷亂ノ時ニ際シテハ往々實力ヲ以テ此地位ヲ得テ正當ノ君主タルモノナキニアラサルハ古今萬國ノ史上ニ照シテ其例少ナカラサルヲ見ル

(ロ)此種ノ犯罪ハ天皇ノ御一身ニ對スルモノナレハ其物體ハ生命身體自由若クハ名譽ニシテ財產ヲ包含スルコトナシ而シテ生命身體自由ハ危害罪ノ物體タルヘキモノニシテ特ニ茲ニ說明ヲ要セスト雖不敬罪ノ物體タル名譽ニ至リテハ即チ君主タルノ地位ニ相當スヘキ威嚴尊榮ヲ包含スルモノニシテ通常人ニ對シテ誹毀罪又ハ侮辱罪ヲ構成セサルモノト雖尙ホ不敬罪タルヲ免レサルコト甚少ナカラストス

(ハ)先帝及ヒ皇陵ニ對シテハ危害ノ罪ナシト雖不敬罪ニ至リテハ即チ之ヲ在位ノ天皇ニ對スルモノト爲サヽルヲ得ス皇族ニ對スル不敬罪ト雖其害在位ノ天皇ニ及フモノモ亦同シ

〔犯意〕此種ノ罪ヲ構成スルニハ故意アルヲ要シ過失ニ係ルモノヲ問ハスト雖特ニ惡意アルヲ要セス蓋シ古來ノ學者カ君主ニ對シ敵意ヲ狹ムコトヲ要ストセルノ說ハ危害ノ罪ハ國事ニ關スル目的ニ出テサルヘカラストセルノ誤謬ニ原因セリ但シ君主タルコトヲ知ラスシテ犯シタルモノハ故意ナキニアラスト雖罪トナルヘキ事實ヲ知ラサルモノナレハ(第七十七條第三項)通常ノ犯罪トシテ之ヲ罰スルノ外他ニ其道ナキヲ以テ常人ニ對シテモ亦罪トナルヘキ所爲ニアラサレハ全ク之ヲ不問ニ附セサルヲ得サルナリ

〔所爲〕法文ニ「危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル」モノト明言スル以上ハ未遂犯ハ勿論未タ未遂ニ至ラサル豫備陰謀ノ所爲ト雖尙此罪ヲ構成スルニ足ルヘシ只タ不能犯ニ至リテハ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルコトヲ得サルヲ以テ素リ罪トシテ之ヲ論スルコトヲ得ス但シ不敬罪ニ就テハ法文ハ單ニ不敬ノ所爲ト云フニ過キサルヲ以テ恐クハ未遂以前ノ所爲ヲ罰スルコトヲ得サルヘシト雖此法律ヲ適用スルニ際シテハ獨リ加害者ノ所爲ノミナラス其所爲ハ果シテ君主ノ君主タル威嚴榮ヲ損スルモノナルヤ否ヲ考察スルコトヲ要ス

〔手段〕犯罪ノ手段如何ニ就テモ法文ハ特ニ之ヲ規定スルコトナキヲ以テ如何ナル手段ト雖此犯罪ヲ構成スルコトヲ

得ヘシ不敬罪ノ如キモ亦必スシモ公然ノ演說刊行ノ文書等通常人ノ名譽ニ關スル犯罪ニ必要ナル手段ヲ用ユルコトヲ要セス

〔刑罰〕危害ノ罪ハ死刑ニ處シ不敬ノ罪ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其輕罪ノ刑ニ止マルモノト雖仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第三章　皇室ニ對スル常事犯

皇室ニ對スル常事犯ハ在位ノ天皇ノ外其他ノ皇族ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルノ罪及ヒ不敬ノ罪ノ二種トス（第百十六條乃至第百十九條）而シテ其犯罪ノ〔主體〕ニ就テハ特ニ記スヘキモノナク〔所爲〕及ヒ〔手段〕ニ就テハ皇室ニ對スル國事犯ノ場合ト異ナル所ナシ

〔物體〕此犯罪ノ物體ハ太上天皇三后皇太子及ヒ其他ノ皇族トス篡位ノ君主ノ皇族及ヒ攝政ニ就テノ場合ハ皇室ニ對スル國事犯ノ場合ト同シケレハ茲ニ略ス

〔犯意〕此罪ヲ構成スルニハ必ス故意アルヲ要スルモ惡意アルヲ要セス故ニ在位ノ天皇以外ノ皇族ニ對スル罪ハ前章ノ理由ニ依リ設令ヒ國事ニ關スル目的ニ出ツルモ尙ホ其罪質ニ至テハ之ヲ常事犯ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス

〔刑罰〕太上天皇三后皇太子ニ對スル危害ノ罪及ヒ不敬罪ハ在位ノ天皇ニ對スルモノト同一ノ刑ニ處シ其他ノ皇族ニ

對シテハ危害ヲ加ヘタルモノヲ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタルモノハ無期徒刑ニ處シ不敬ノ所爲アルモノハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其輕罪ノ刑ニ係ルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二篇　國家ニ對スル罪

第一款　國事犯

第一章　國事犯一般ノ性質

（ベルチル氏刑法原論第三五一葉）（ガルトラン氏著佛國刑法原論第二九九葉）（チツソー氏著佛國刑法第一六九葉）

國事犯トハ廣義ニ於テハ在位ノ天皇ニ對スル罪、朝憲紊亂國土僭竊ノ罪、外國ニ對スル罪及ヒ公權ノ施行ニ抗拒スル罪ノ四者ヲ包含スレトモ就中君主ニ對スル危害ノ罪及ヒ朝憲紊亂邦土僭竊ノ罪ハ學者或ハ稱シテ叛逆ノ罪ト云ヒ通常之ヲ狹義ノ國事犯ト云フ我刑法ニ於テモ亦專ラ內亂外患ニ關スル罪ノミヲ以テ國事犯トスルモノヽ如シ故ニ予ノ茲ニ論スル所ノ國事犯ナル者モ亦其ノ狹義ニ於ケルモノニ外ナラスト雖本章ニ於テハ先ツ學理上ヨリ國事犯

ノ性質如何ヲ考究シ次章ニ於テ現行刑法ノ規定ニ論及セン

國事犯ニ就キ古來學者ノ下セル定義ハ其數甚少ナカラスト雖或ハ曖昧摸糊トシテ其眞意ヲ明カニスルニ足ラス或ハ陳腐ノ說ヲ固守シテ大ニ理論ニ適セサルモノ比々皆然リトス蓋シ此犯罪タル頗ル複雜シテ容易ニ完全ナル定義ヲ下スコト能ハサルニ由ルヘシト雖學者深ク國法ノ原理ヲ究メス徒ニ沿革ニ成リタル古來ノ成典ニ拘泥シテ學理的ノ考案ヲ下スコトヲ務メサルカ如キモ亦其一源因タルヲ得サルナリ余ハ今マ自己ノ意見ニ依リ此重大困難ナル犯罪ノ定義ヲ下スコトヲ止メ予ノ最モ適正ニシテ又最モ學理ニ適シタルモノト信スル所ノ法律博士クニッシュキー氏ノ說ヲ擧ケ以テ之ヲ解說評論セム氏ノ定義ニ曰ク「國事犯トハ國家ノ自斷權ヲ侵害シ以テ現存スル憲法國土ヲ變亂シ又ハ國主ノ一身ヲ犯スノ所爲」ヲ云フ

クニッシュキー氏著大逆罪論第一二二葉

〔第一〕國事犯ヲ以テ國家ノ存立ヲ害スルノ所爲トスルハ現世紀ノ初メニ於ケル刑法學者ノ喋々セル陳腐ノ說ニシテ近世ニ至リテモ尙ホ此舊說ヲ脫スルコト能ハサルノ著書甚タ少ナカラスト雖已ニ今日學者ノ容レサル所ナリ抑モ國家ハ國事犯者ノ決シテ消滅スルコトヲ得ヘキモノニアラス設例ヘハ君主國ヲ變シテ共和國ト爲スカ如キハ新國ノ創設ト同時ニ舊國ノ滅亡ヲ來スニ似タレトモ是レ皮相

ノ想像タルヲ免レス何トナレハ此等ノ場合ニ於テハ單ニ政體ノ變更ヲ生シタル迄ニシテ新政府ハ舊政府ノ有セル一切ノ權利ヲ相續スルニ過キサレハナリ若シ果シテ然ラスト雖ハ苟モ一國ニシテ正當ニ憲法ヲ改正變更スルコトアルモ常ニ舊國ヲ消滅シテ新國ヲ創設シタルモノトナシ舊國ノ權利義務ハ新國ノ更ニ與リ知ラサルモノトセサルヲ得サルニ至ルヘシ以テ國事犯ハ國家ノ存立ヲ害スルモノニアラサルヲ知ルヘシ故ニ博士フェーデル氏ノ如キハ舊說ノ誤見ヲ脫シ學者ノ批難ヲ避ケンコトヲ企テ暴力ニ出テタル憲法ノ變更ハ必ス國家ノ一個人タル資格ヲ損害スルモノトナシ而シテ其一個人タル資格ノ損害ハ必ス國

フェーデル氏著國事犯論第七五葉

ゲルベル子氏論獨逸國法原理第一九葉

家ノ自斷權ヲ侵セルモノニ外ナラストセリ氏ノ言ニ曰ク

「國家ニシテ若シ自斷ノ權ナクハ國家ハ即チ一個人タル資格ナキモノニシテ毫末ノ意思ナキ死物ノミ然ルニ一個人タル國家ハ一定ノ規則ニ從ヒ活動スヘキモノタルヲ以テ此等ノ規則ヲ總括シテ憲法ト云ヒ憲法ヲ變更セン爲メ國家ノ一個人タル資格ニ對シテ暴力ヲ加フルモノハ即チ國家ノ固有セル自斷ノ權ヲ侵シ以テ國家ノ要素ヲ消滅スルモノナリ」ト故ニ國事犯ノ物體クルヘキモノハ只タ國家ノ自斷權ノミニシテ敢テ其他ニアラサルナリ蓋シ國家ニシテ苟モ一個人タル以上ハ國家ハ其ノ意思ニ從ヒ自由ニ活動スルノ權利ナカルヘカラス而シテ夫ノ國事犯者ナルモ

山田評國家自斷權ノ性質ニ就テハ著者ハ仍ホ之ヲ詳解スルノ責任アリ

ハ自己ノ意思ヲ以テ一般ノ意思即チ國家ノ意思ニ代ヘ以テ國家ノ自由ニ決定處斷スルノ權ヲ侵害ス故ニ苟モ此權ヲ侵害スルノ所爲ハ必スシモ兵亂ノ手段ニ依ラスト雖尚ホ之ヲ國事犯トセサルヲ得ス設例ヘハ在朝ノ大臣國會ノ議決ヲ待タスシテ法律ヲ頒布シテ之ヲ實行シタル場合ノ如キハ一己ノ私意ヲ以テ一般ノ意思ニ代ヘ以テ國家固有ノ自斷權ヲ侵シタルモノト云ハサルヲ得サルナリ之ニ反シ犯罪ノ手段ハ一大戰爭ニ依ルモ國家ノ自斷權ヲ侵害スルコトナシンハ之ヲ國事犯トスルコトヲ得ス設例ヘハ行政又ハ司法處分ノ施行ニ抗敵スルニ兵ヲ以テスルモ毫モ國家ノ自斷權ヲ侵害スルモノニアラス

(第二)君主、邦土及憲法ノ三者ハ國家ノ要素ナリ或ル一種ノ哲學派ハ邦土ハ無形人ノ成立ニ必要ナルモノニアラサルヲ以テ邦土ナキ國家モ亦存在スルコトヲ得ベシトスレトモ空中ニ國家ヲ構造スルコトヲ得サル以上ハ邦土(幷ニ住民)ヲ以テ國家ノ現存ニ必要ナルモノト云ハサルヲ得ス故ニ苟モ此三者ノ一ナクンハ國家ノ自斷權モ亦空シカルベシ言ヲ換ヘテ之ヲ云ハヽ不法ニ此三者ヲ變更スルトキハ同時ニ國家ノ自斷權モ亦當然侵害ヲ受クヘキモノトス然レトモ之ニ反シテ國家ノ自斷權ヲ侵害スルトキハ必ス此三者ノ一ヲ變更スルモノト論定スルコトヲ得ス設例ヘハ暴力ヲ以テ國會ノ開場ヲ妨ケ以テ或ル法律ヲ制定スルコ

トナカラシメ又ハ强迫シテ或ル法律ヲ制定セシムルカ如キハ國家ノ自斷權ヲ侵害スルモ毫末モ其憲法ヲ變更シタルモノニアラス故ニ此等ノ犯罪ハ只タ公權(參政權)ノ施行ヲ抗拒スルノ罪ニシテ廣義ニ於ケル國事犯タ。ルヘキモ狹義ニ於ケル國事犯トスルコトヲ得サルナリ

第二章　內亂ニ關スル罪

刑法第百二十一條ニ曰ク政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トナシ內亂ヲ起シタル者ハ云々ト今マ此法文ニ從フトキハ本條ハ政府顚覆邦土僭竊及朝憲紊亂ノ所爲ヲ罰スルモノニアラス只タ此等ヲ目的トシタル內亂ノ所爲ヲ罰スルニ止マルカ如シト雖犯罪

ノ目的ハ各人各異ノ性質ヲ帶フルモノニシテ目的ノ異同ヲ以テ法律上犯罪ノ區別ヲ爲スコト能ハサルハ已ニ汎論ニ於テ詳述シタル所ノ如シ若シ法文ノ字句ニ拘泥シ目的ヲ以テ本罪ヲ構成スルノ要素ト解スルコトアラハ實ニ本條ヲシテ空文タラシムルニ至ルヘシ何トナレハ本條ニ定メタル目的ノ外設例ハ宗教ノ改革ヲ目的トシテ內亂ヲ起シ以テ朝憲紊亂邦土僭竊等ノ結果ヲ發生シタル所爲ノ如キハ遂ニ本條ニ依リ之ヲ罰スルコトヲ得サルニ至ルヘク尙ホ甚シキハ朝憲ヲ紊亂シ邦土ヲ僭竊シタル犯者ト雖其目的ノ私欲ニ出ツルコトヲ主張スルニ於テハ又之ヲ如何トモスルコト能ハサルノ不都合ヲ來スベケレハナリ余カ

前篇ニ於テ皇室ニ對スル犯罪ヲ論スルニ際シ目的ノ國事ニアルト私怨ニ出ツルトヲ問ハス在位ノ天皇タルコトヲ知リツヽ之ニ對シテ危害ヲ加フルモノハ即チ國家ノ主權者ヲ害スルモノニ外ナラストセルモ亦此理ニ外ナラス之ニ反シテ內亂ヲ起シ兵ヲ擧クルモノアリトモ爲メニ朝憲ヲ紊亂シ邦土ヲ僭竊スルコトナキモノハ國事犯トシテ之ヲ處分スルコトヲ得ス況ンヤ目的ハ政府ヲ變亂スルニ在ルモ在位ノ天皇ノ外大臣其他ノ人ヲ謀殺スルカ如キハ毫末モ國憲ヲ紊ルモノニアラサルオヤ刑法第百二十三條ノ場合ハ其性質決シテ國事犯罪ニアラサルナリ故ニ犯罪ノ目的ハ法律上犯罪ヲ區別スルノ標準タルコトヲ得ス予ハ目的ノ國事ニ在ルト否トヲ以テ國事犯ト常事犯トヲ區別スルノ方法ヨリ寧ロ國憲紊亂ノ結果アルト否ト又其目的ノ如何トヲ問ハス政府ニ對シテ內亂ヲ起シタルモノハ盡ク之ヲ國事犯罪トスル英國立法官ノ老練伎倆ヲ稱賛セサルヲ得サルナリ

然ラハ即チ我刑法ノ規定ハ如何ニシテ正當ノ解釋ヲ下スベキカ予ハ法文ノ字句ニ拘泥セス內亂ノ所爲ハ單ニ之ヲ犯罪ノ手段ト見做シ內亂ニ依リ政府ヲ顚覆シ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルノ所爲ヲ以テ我法律ノ國事犯ナリト解說シ以テ之ヲ分析批評セント欲スルナリ然レトモ若シ此紊亂ノ所爲ニシテ實行セラレタル以上ハ同時ニ新憲

法ヲ發生スヘキモノニシテ國家ハ已ニ罪トシテ之ヲ問フコトヲ得ス該ニ所謂敗者ハ朝敵勝者ハ官軍タルハ國事犯ノ本性タリ故ニ刑法ハ只タ此紊亂ノ所爲ヲ遂クヘキ企圖ヲ罰スルニ過キサルヘシ然ルニ此ノ罰スヘキ企圖タル直ニ朝憲ヲ紊亂スヘキ手段タル所爲ニ外ナラサルヲ以テ內亂ニ依リ朝憲ヲ紊亂スル所ノ所爲ノ未遂犯ハ卽チ朝憲紊亂ノ結果ヲ發生スヘキ內亂ノ所爲ノ已遂犯ナリ而シテ現行刑法ニ於テハ全ク此ノ已遂犯ヨリ犯罪タル所爲ヲ定メタルヲ以テ其法文ヲ解釋スルニ當リテハ之ヲ政府顚覆邦土僭竊其他朝憲紊亂ノ結果ヲ生スヘキ內亂ノ罪トセサルヲ得サルナリ

合富評
犯人ノ目的如何
拘ハラス朝憲紊亂ト否トノ結果リアル國事犯ト否ムタルハ固ヨリ國事犯ナリヲ定メ可ナルモコトヲ不然レトモ紊亂ノ所爲ヲ遂クヘキ國事犯ハ內亂ノ所爲ニ因リ實際紊亂ノ結果アルヲ待チテ內亂ノ意思ヲ以テ罰セサルヲ可カラス刑法ハ紊亂ノ所爲ヲ罰スヘキ內亂ノ意思ヲ罰スルニ過キサルヲ以テ內亂ノ所爲ヲ罰スヘキ內亂ノ意思ヲ罰スルニ過キサルヲ可カラス

刑法第百二十一條ハ其文字穩當ナラサル所アルモ目的ノ文字ヲ以テ著者ノ所謂同一ノ趣旨ヲ企圖ト爲スモ目的ノ必ストキハ文字ヲ抹殺シテ解釋ヲ下タサヽル可カラス空文ヲ爲ヒナカル可シ

興田評
國家紊亂ノ結果ヲ生スヘキ事ヲ如ルハ卽チ故意ナリ法文中ノ目的ノ二字ハ穩カナラサルニ似タルモ只タ之ヲ故意ト解スルヲ以テ上ハ著者ノ別ニ異論ナカルヘシ

〔主體〕國事犯ノ主體タルヲ得ヘキモノハ我政府ニ服從スルノ義務アルモノニ限ルハ已ニ前節皇室ニ對スル國事犯罪ノ場合ト異ル所ナシ

〔物體〕已ニ第一章ニ於テ論述シタルカ如ク國事犯ノ物體タルヘキモノハ國家ノ自斷權ニ在リト雖此自斷權タル國家ノ憲法上ニ於テ始メテ其形式ヲ顯出スルモノナルカ故ニ直接ニ被害ノ物體タルヘキモノハ卽チ朝憲ナリ刑法ノ正條ニハ政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルモノハ云々ト謂ヒ三種ノ物體ヲ指示シタルニ似タレトモ政府ノ顚覆モ亦朝憲ノ紊亂ニ過キサルヲ以テ必スシモ之ヲ區分スルヲ要セス

〔犯意〕内亂ノ罪ハ必スシモ惡意アルヲ要セス故意アルヲ以テ足レリトス論者往々惡意即チ朝憲紊亂ノ故意アルコトヲ要ストスルモノナキニアラスト雖素リ取ルニ足ルヘキ說ニアラス但シ此犯罪ニ就テハ單ニ故意ニ出タル内亂ノ所爲ハ朝憲紊亂ノ結果ヲ生スルコトヲ知ルコトヲ要スルハ當然ナレトモ未タ之ヲ以テ特ニ此罪ヲ構成スルニ必要ナルノ惡意ト云フコトヲ得ス何トナレハ朝憲紊亂ノ結果ヲ生スヘキコトヲ知ラサルトキニ當リ之ヲ無罪トスルハ惡意ヲ欠キタルノ故ニアラスシテ單ニ總則第七十七條第二項ヲ適用スルノ結果タルニ過キサレハナリ

〔所爲〕内亂トハ戰爭一擬暴動等必スシモ英國法ノ如ク兵ヲ

ホツペンホツフ氏著刑法註解第二三二葉
ベルチル氏著刑法論第三六三葉
シユワルツエー氏著刑法註解第二九〇葉
シユツツエー氏著刑法第二三四葉

舉クルコトヲ要セス凡テ國内ニ於ケル暴舉ヲ指示スルモノナレトモ其所謂暴舉ナルモノハ必ス有形的即チ腕力上ノ暴舉ニシテ無形的ノ暴舉ヲ包含スルコトナキモノヽ如シ尤モ此點ニ就テハ學者ノ間數多ノ議論アリ殆ト一決スルコトナキニ似タリオツペンホツフ氏ハ無形ノ暴舉ヲ包含スルモ單ニ强迫ニ止マルモノハ暴舉ニアラスト云ヒベルチル氏ハ上ヨリスルノ國事犯即チ在朝諸大臣及官吏等不法ノ達令命令（ミニステリアル、デクリー）ヲ發シテ憲法ヲ紊亂スルカ如キハ有形上ノ暴力ヲ用ヒサルモ官權ノ濫用ニ出テタル國事犯者タルヲ免レスト云ヒ之ニ反シテシユワルツエー氏ヨーン氏シユツツエー氏ノ如キハ此論ヲ駁擊シ有形ノ暴力ト單純ノ

強迫トノ中間ニ位スヘキ無形ノ暴力ハ此犯罪ヲ構成スルニ足ラストセリ然レトモ我刑法ニ於テハ現ニ内亂ノ文字ヲ用ヒタルヲ以テ如何ニ巧妙ノ理論ヲ以テスルモ無形ノ暴舉ヲ以テ直ニ之ヲ内亂トスルコト甚タ難カラム但シ無形ノ暴舉ヲ以テ此罪ヲ成立セサルモノトスルトキハ其ノ未遂陰謀豫備モ亦内亂罪ノ未遂陰謀等ヲ以テ罰スルコトヲ得サルヘシ理論上毫厘ノ差ハ能ク千里ノ遠キニ及フモノト云フヘシ○我刑法ハ必スシモ内亂ヲ起スヲ要セス内亂ノ爲メ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ刼掠シタル者ハ内亂ヲ起シタルモノト同視セリ(第百二十二條)○又第百二十三條ニ於テ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧クルニ至ラスト雖モ内亂ト同シク論スヘキ旨ヲ定メタリ然レトモ此罪タル本來國事犯ノ性質ヲ有スヘキモノニアラサルハ已ニ論述シタル所ニ依リ自ラ明了ナラム論者ニシテ若シ反對ノ意見ヲ持スルモノアラハ予ハ一例ヲ擧ケテ試ニ問ハン茲ニ人アリ政府ヲ變亂スルニ足ルヘキモノト思料シ一赤兒ヲ殺シタルモノアラハ論者ハ之ヲ内亂罪ノ已遂トナシ其未タ遂ケサルモノモ第百二十四條ヲ適用シテ尚ホ之ヲ死刑ニ處スルハ論理ノ許ス所ナリトスル乎若シ又犯罪ノ物體ハ一赤兒ニ止マラス政府要路ノ長官ヲ謀殺シタリトスルモ其所爲ハ以テ政府ヲ變亂シ憲法ヲ紊亂シタルモノトスヘキ乎

〔已遂未遂〕國事犯罪ハ未遂犯ノ時ニ於テ本刑ヲ科スルヲ以テ本則トス是レ國事犯ノ已遂ハ之ヲ罰スルコトヲ得サルニ依ルト雖我刑法ハ前已ニ論述セルカ如ク朝憲紊亂ノ所爲ヲ以テ國事犯罪ノ已遂トスルコトナク其未遂犯即チ內亂ノ所爲ヲ以テ已遂ト定メタルヲ以テ此點ニ就テハ特ニ未遂犯ノ時ニ於テ本刑ヲ科スルノ必要ナシ然ルニ第百二十四條ニ於テ明カニ特例ヲ定メタル以上ハ內亂ノ所爲ノ未遂ノ時ニ於テ已ニ本刑ヲ科セサルベカラス故ニ朝憲紊亂ノ所爲ヲ已遂罪トスルノ點ヨリ之ヲ推ストキハ我刑法ハ未遂罪ノ未遂ノ時ニ於テ本刑ヲ科スル者ト云フヘシ

〔豫備及ヒ陰謀〕國事犯ハ豫備陰謀ト雖之ヲ國事犯ノ一トシテ處分スヘキモノトスルハ殆ト各國刑法ノ通則ナリ然レトモ我刑法ノ所謂豫備陰謀ナルモノハ朝憲紊亂ノ所爲ノ豫備陰謀ニアラスシテ內亂タル所爲ノ豫備陰謀ナリ故ニ朝憲ヲ紊亂セントスルノ陰謀ヲ爲スモ內亂ヲ興スノ陰謀ヲ爲スニアラサレハ我刑法ノ問フ所ニアラス(第百二十五條)而シテ其豫備ノ何物タルニ就テハ汎論ニ於テ已ニ之ヲ論シタレハ今茲ニ之ヲ畧スヘシト雖尙ホ茲ニ一言ノ注意ヲ要スヘキモノアリ即チ內亂罪ノ所謂陰謀ナルモノハ通常犯罪ノ如ク單ニ犯罪ヲ爲サンコトヲ決意シタルモノニアラス二人以上共ニ合議決定シタルコトヲ指スモノナリ尤モ內亂ノ罪ト雖一人ニシテ敢テ之ヲ行フコト能ハサル

モノニアラサルヘシト雖一人ノミノ決意ニ係ル陰謀ノ如キハ輕微ニシテ之ヲ罪トスルニ足ラス故ニ我刑法ノ解釋上ニ於テハ佛律ノ精神ヲ推シ二人以上ノ合議決定ニ係ルモノヲ以テ始メテ陰謀ノ罪ヲ爲スヘキモノトスルヲ適當トス

佛國刑法第八十九條第三項

〔共犯〕内亂ノ罪ハ必スシモ多數アルヲ要スヘキモノニアラサルモ數人共犯ノ場合ニ係ラサルモノハ殆ト之ヲ絶無ト云フヘキノミナラス往々數千數萬ノ共犯者アルヘキモノナルヲ以テ我刑法ハ第百二十一條ニ於テハ特ニ共犯ノ例ヲ掲ケ適宜ニ之ヲ處斷スルノ方法ヲ設ケタリ即チ國事犯ニ就テハ共犯ヲ四種ニ區別シ第一首魁第二首魁ヲ輔佐シ群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者第三兵器ヲ資給シ其他諸般ノ職務ヲ爲シタル者第四教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者トセリ然レトモ此區別タル其間素リ學理上ノ差異アルニアラス立法官ハ恐クハ僅カニ一二ノ實例ヲ想像シテ實際上適宜ノ處分ヲ爲サンコトヲ企テタルモノヽ如シ故ニ法文ノ字句自ラ有形的ニシテ記事體タルヲ免レサレハ此共犯例ヲ以テ千百ノ場合ニ適用セントスルニハ法官極メテ其困難ヲ覺ユルモノアラントス但シ教唆者ノ處分ニ就テハ刑法總則ヲ適用シ第一首魁ノ教唆者ハ首魁ト同シク論シ第二以下各其罪ニ依リ其教唆者ヲ以テ之ヲ論スレハ即チ足レリ

ビショップ氏著刑法第一二二九節

トス故ニ我刑法ハ特ニ「首魁及ヒ教唆者」云々ト明記スルノ必要ナシト雖立法官ハ特ニ首魁ヲ教唆スルモノニ止マラス首魁其他一般ノ犯者ヲ總括シテ教唆スルモノアルヘキ場合ヲ豫定シタルモノナラム○又我刑法ハ從犯ニ就キ一ノ特例ヲ設ケタリ即チ內亂ノ情ヲ知ツテ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者トス(第百二十七條)但シ此犯罪ハ必ス一般ノ從犯ノ性質ヲ帶フルモノタラサルヘカラス何トナレハ事後ノ從犯ナルモノナキハ已ニ汎論ニ於テ論述シタル所ノ如クナルヲ以テ特別ノ共犯例ト雖共犯ノ性質ナキモノヲ罰スヘキモノトスルニ至リテハ解釋上條理ニ適スルモノトスルコトヲ得サレハナリ

(數罪俱發)內亂タル一所爲ハ數多ノ所爲ノ集合ニ成ルヘキ場合甚タ多キヲ以テ其各分子ナル所爲ニシテ同時ニ他ノ罪ヲ構成スルトキハ數々數罪俱發ノ場合アルヘシト雖法律ニ於テ特ニ內亂ノ所爲ナルモノヲ認メタル以上ハ苟モ其所爲中ニ包含スルモノハ之ヲ數罪俱發トシテ處分スルコトヲ得サルハ法理ノ通則ナルヲ以テ內亂タル所爲ハ果シテ如何ナル所爲ヲ包含スルヤ否ヲ明カニスルコトヲ要ス然レトモ其所爲ノ數多ナル逐一之ヲ枚擧スルコト能ハサルナリ若シ又之ニ反シ一定ノ通則ニ依リ之レカ區分ヲ爲サントスルヤ事簡ニ失シテ明確ヲ得サルノ恐レアリト雖到底豫メ之ヲ確定スルコト能ハサルヲ以テ予ハ內亂ノ

所爲ハ之ヲ通常一様(コンセンセンス)ノ意義ニ解釋スルノ外他ニ其方法ナキモノト思惟スルナリ而シテ内亂ノ何物タル斯ク已ニ一定シタルトキハ目的ノ如何ヲ問ハス苟モ内亂タル所爲ニ包含スヘキ所爲ニアラサレハ盡ク之ヲ數罪俱發ノ例ニ照サヽルヲ得ス設例ヘハ官軍ノ攻略ヲ防クノ手段トシテ民家ヲ燒拂ヒ又ハ官軍ヲ進擊シテ之ヲ殺スカ如キハ内亂ノ所爲ニ包含スヘキモ軍中ニ於テ味方ヲ殺害シ又ハ防守ニ必要ナラサル一二ノ民家ニ放火スルカ如キハ之ヲ常事犯トセサルヲ得ス刑法第百二十八條ニ内亂ニ乘シテ人ノ身体財產ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタルモノハ通常ノ刑ニ照シテ重キニ從テ處斷スト云ヘルハ即チ此意ナリト雖其所謂内亂ノ目的ニ關セサル罪トハ單ニ之ヲ内亂ニ包含セサル所爲ト解セサルヲ得ス○同上ノ理由ヲ推及スルトキハ豫備陰謀ニシテ他ノ刑名ニ觸ルヽトキハ内亂ノ場合ト異ニシテ常ニ之ヲ數罪俱發ニ問ハサル可ラサルコトヲ發見スヘシ何トナレハ豫備陰謀ナルモノハ已ニ汎論ニ於テ詳述シタル如ク毫モ犯罪タル所爲ニ關係ナキモノタルヲ以テ内亂ノ場合ニ於テモ亦決シテ之ヲ内亂タル所爲ノ範圍中ニ置クコトヲ得サレハナリ設例ヘハ内亂ヲ起サント欲スルモ資金ナキカ爲メニ民家ニ侵入シテ强竊盜ヲ爲シタルモノヽ如キハ之ヲ通常ノ强竊盜ニ問ハサルヲ得サルハ猶ホ人ヲ謀殺セント欲シテ兇器ヲ竊

取シタルモノハ之ヲ竊盜ノ罪ニ問ヒ謀殺ノ豫備トスルコトナキニ異ナラス故ニ内亂ノ豫備又ハ陰謀トシテ其罪ヲ問フニハ其豫備陰謀ノ所爲ニシテ他ノ犯罪ヲ構成セサル場合ニ限ルヘシ

〔刑罰〕首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處シ樞要ノ職務ヲ爲シタルモノハ情狀ノ輕重ニ從ヒ無期流刑又ハ有期流刑ニ處シ諸般ノ職務ヲ爲シタルモノハ重禁獄又ハ輕禁獄ニ處シ附和隨行シ又ハ雜役ヲ爲シタルモノハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其輕罪ノ刑ニ處スル者ハ尚六月以上二月以下ノ監視ニ附ス然レトモ豫備ノ所爲アルモノハ一等ヲ減シ陰謀ニ止マルハ二等ヲ減シ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首スルモノハ本刑ヲ免シ單ニ六月以上三年以下ノ監視ニ附ス(第百二十一條乃至第百二十八條及ヒ第百三十五條)

第三章　外患ニ關スル罪

現行刑法ニ於テハ外患ニ關スル罪ハ凡テ交戰中ニアラサレハ之ヲ罪トシ論スルコトナシ論者往々交戰中ニアラサルモ尚ホ外患ニ關スル罪ヲ構成スルコトヲ得ヘキモノトスルモノアレトモ是レ未タ現行刑法ノ規定スル所ヲ熟慮セサルノ誤ニ出ツ抑モ交戰中トハ實際ノ戰爭中ヲ云フモノニアラスシテ或ル外國ヲ以テ敵國ト公認シタルノ時ヲ指スモノナリ故ニ刑法中必スシモ交戰中ノ文字ヲ用ヒサ

ルモ或ハ敵國ニ交付通知スルト云ヒ或ハ敵兵ニ附屬スト云フモ共ニ之ヲ交戰中ト見做サヽルヲ得サルナリ但シ第百三十三條ノ場合ハ主トシテ交戰中ニアラサル場合ヲ規定シタルモノニ係ルト雖此條ノ罪タル當サニ之ヲ外國ニ對スル犯罪中ニ入ルヘキモノニシテ外患ニ對スル犯罪中ニ插入スヘキモノニアラス

〔主體〕日本人民及ヒ日本在留ノ外國人ニアラサレハ外患ニ關スル罪ヲ犯スコトヲ得ス但シ其軍人軍屬ニ係ル場合ハ陸海軍刑法ニ依テ處斷シ第百三十二條ノ場合ニ於テハ陸海軍ノ依托ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス所ノ通常人ニ限レリ

〔物體〕被害ノ物體ハ外國ニ對スル日本ハ主權ナリ故ニ外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル罪(第百三十三條)ノ如キハ毫末モ日本ノ主權ヲ害スルコトナク其直接ノ被害者ハ外國ノ主權者タルヲ以テ之ヲ外患ニ關スル犯罪トスルコトヲ得サルナリ

〔所爲及ヒ刑罰〕外患ニ關スル罪タル所爲ハ甚タ數多ニシテ一樣ナラスト雖現行刑法ニ於テハ左ノ四種ノ所爲ヲ認メ各〻之ヲ別罪トセリ

第一、背叛ノ罪　ハ外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ニ與セサルモ同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬スルノ所爲ニシテ死刑ヲ以テ其罪ヲ論

ス(第百二十九條)

第二、敵國ニ助勢スルノ罪　ハ敵兵ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城寨又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物體ヲ敵兵ニ交付スルノ所爲ヲ謂フ罰前項ニ同シ(第百三十條)

第三、秘密洩泄ノ罪　ハ本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知スルノ所爲ニシテ敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ又ハ藏匿スルカ如キモ亦此罪ニ準シ共ニ無期流刑ニ處ス(第百三十一條)

第四、軍備ノ欠乏ヲ致スノ罪　ハ陸海軍ノ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者敵國ニ通謀シ又ハ其賄遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ且ツ軍備ノ欠乏ヲ致シタル所爲ニシテ之ヲ有期徒刑ニ處シ尙輕罪ノ刑ニ處スル場合ニ於テハ前三項ノ罪ト等シク之ヲ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス(第百三十二條及ヒ第百三十五條)

第二款　外國ニ對スル罪

何レノ國ニ在ルヲ問ハス苟モ日本人民又ハ本邦在留ノ外國人ニシテ外國ノ君主ニ危害ヲ加ヘ若クハ外國ノ邦土ヲ僭竊シ其他國憲ヲ紊亂セントスルノ暴擧ヲ爲シ又ハ外國

ノ君主著タハ本邦在留ノ外國公使ニ對シ不敬ノ所爲アルモノヽ如キハ德義上ニ於テハ大ニ咎ムヘキナキニアラスト雖日本ノ刑法ヲ以テ之ヲ處斷スルコトヲ得ス何トナレハ我日本ノ人民及ヒ在留ノ外國人ハ只タ日本ノ主權ニ服從スルノ義務アルヘキモ外國在留中ノ外外國ノ主權ニ服從スルノ義務ナキモノナレハナリ英國前宰相ビーコンスフヒールド侯カ其著ハスト所ノ一小說ニ於テ語ヲ親王リープットノ口ニ借リ「己ノ當ニ奉スヘキ君主ニアラサルモノニ對シテ國事犯トハ何事ソヤ」ト云ヘルハ眞ニ能ク此意ヲ得タルモノト謂フヘシ然レトモ特別ノ條約又ハ外國刑法ノ規定ニ依リ外國ニ於テモ亦相互ニ此種ノ犯罪ヲ處刑セソコトヲ保證シタルトキハ外國政府ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ斷スルハ妨ナシ但シ治外法權ノ今日ニ存スル間ハ我日本人民ニシテ外國ニ在テ此等ノ罪ヲ犯シタルトキハ外國ノ法律ニ照シテ處斷セラルヘキモ本邦在留ノ外國人ニシテ此等ノ罪ヲ犯スモ我刑法ニ依リ之ヲ處斷スルコトヲ得ス從ツテ外國刑法ニ此等ノ罪ヲ罰スルノ明文ナキニ於テハ全ク之ヲ無罪トスルニ至ルベシ

ビーコンスフヒールド侯著ビヽアンゲレイ之傳第三三七葉

現行刑法ニ於テ外國ニ對スル罪ト認ムヘキモノ二アリ一ハ外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開ク罪(第百三十三條)ニシテ一ハ局外中立ノ布告ヲ破ルノ罪(第百三十四條)トス

(主體)ハ一私人タル日本國民及ヒ在留外國人ニシテ日本政

府ハ此犯罪ノ主體タルコトヲ得サルハ勿論ナリ

佛國刑法第八十四條
獨逸刑法第八十七條

〔物體〕此種ノ犯罪ニ於テハ被害ノ物體ハ外國ノ主權者ナリ然レトモ苟モ我刑法ヲ以テ此罪ヲ定メタル以上ハ其破ル所ノ法律ハ日本ノ法律ニ外ナラスト雖直接ニ犯罪ノ物體タルモノハ外國ノ政府ナリ但シ若シ此罪ヲ以テ佛獨等ノ刑法ニ於ケルカ如ク外國ノ政府ニ通款シ又ハ外國ニ對シテ敵對ノ所爲ヲ行ヒ本國ヲシテ外國ト戰端ヲ開カシムルノ所爲タラシメハ其犯罪ノ物體タルヘキモノハ本國政府ナルヘキモ我刑法ノ正條ハ此意ヲ以テ之ヲ解釋スルコトヲ得サルナリ

〔所爲〕戰端トハ如何ナル所爲ヲ指スヤ否ニ至リテハ只タ之ヲ普通ノ意義ニ解スルノ外ナシト雖本來此罪ハ外國ノ主權ニ對スル所爲タルヲ以テ一私人ヨリ外國ノ政府ニ對シテ開キタル戰爭ヲラサルヘカラス國ト國トノ戰爭又ハ日本ノ一私人ト外國ノ一私人トノ間ニ於ケル鬪爭ノ如キハ犯者ノ多少ヲ問ハス決シテ此罪ヲ構成スヘキモノニアラス○局外中立ヲ破ルノ罪ハ其所爲一樣ナラス外國ト外國ト交戰中本國ニ於テ時々布告シタル法律ニ依リ始メテ其所爲ノ如何ヲ知ルコトヲ得ヘシ

〔刑罰〕私カニ戰端ヲ開キタルモノハ有期流刑ニ處シ其豫備ニ止マルモノハ一等又ハ二等ヲ減シ局外中立ノ布告ニ違背シタルモノハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以

上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ輕罪ノ刑ニ處スルモノトヽ雖尚ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス(第百三十三條乃至第百三十五條)

第三款　官權ノ執行ニ抗スル罪

第一章　官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

現行法ニ於テハ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪ヲ分ツテ二種トシ第一抗命ノ罪第二官吏侮辱ノ罪トス今マ左ニ之ヲ分論セム

第一節　抗命ノ罪

抗命ノ罪トハ官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行强迫ヲ以テ官吏ニ抗拒シ(第百三十九條)又ハ其官吏ノ爲スベカラサル事件ヲ行ハシムルノ所爲(同條第二項)ヲ云フ本罪構成ノ元素ニ付キ注目スヘキ要點左ノ如シ

(主體)何人ト雖此犯罪ニ就テハ其主體タルコトヲ得ヘシ故ニ此罪ヲ犯シ得ヘキモノハ必スシモ法律規則又ハ命令ノ執行ヲ受クル所ノ本人タルヲ要セズ參者ト雖尚此罪ヲ犯スコトヲ得

(物體)被害ノ物體ハ國家ノ執行權タルニ外ナラサルヲ以テ官權抗拒ノ所爲ハ正當職務上法律命令執行中ナル正當ノ官吏ニ對スル者タラサルヘカラス故ニ常人若クハ職務上執行ノ權ナキ官吏ニ係ルカ又ハ官吏ノ執行スル所法律命

命ニ反スルカ又ハ抗拒ニシテ法律命令ノ執行中ニアラスシテ其前後ナル場合ニ在ツテハ毫末モ國家ノ執行權ヲ害スルコトナキヲ以テ此犯罪ヲ構成スルコトナカルヘシ然レトモ官吏ノ行フ所其職務ヲ超ヘ又ハ其ノ處分ノ不正ナル場合ニ於テハ學者ノ間多少ノ議論アリト雖其所爲苟モ官民共ニ了知スヘキ法律規則ニ反シタルトキハ素リ之ヲ此罪ニ問フコトヲ得ル此等ノ議論ニ就テハ余ハ已ニ汎論ニ於テ之ヲ詳述シ事ノ正否ニシテ法律ノ問題ニ屬スルトキハ人民ハ之ヲ拒ムノ權アルヘク事實ノ當否ノ問題ニ屬スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノト論定セリ但シ官吏ハ之ヲ法律ニ適スルト思考シ人民ハ之ヲ不法ノ處分ト思惟スルトキハ官吏ハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ執行シ人民ハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ抗拒スヘシト雖爭議判定ノ後果シテ適法ノ處分タルニ於テハ人民ハ此ノ罪ヲ逃ルヽコトヲ得ス又若シ之ニ反シ不法ノ處分タルニ於テハ人民ハ其罪ヲ免レ官吏ハ不法ノ處分ヲ行ヒタルノ責任ヲ免ルヽコトヲ得サルナリ

(手段)抗命ノ罪ハ必ス暴行强迫ノ手段ニ出ツルコトヲ要スト雖シテ此ノ暴行强迫ハ必ス官吏ノ一身ニ對シテ加ヘタルモノタルヘシ故ニ逃捕官吏ノ追擊シ來ルヲ望見シテ逃走スルカ如キハ其命令ニ抗スルモ素リ此罪ヲ構成スルコトナカルヘシ

(所爲)抗拒トハ官吏ノ命令處分ニ服從セサルノ所爲ヲ云フモノニシテ本罪ヲ構成スルニハ必ス此所爲アルヲ要スルナリ故ニ設ヒ官吏ニ對シ暴行強迫ヲ加フルモ之ニ抗拒スルコトナク其命令處分ハ謹ンテ之ニ服從シタル場合ニ於テハ只タ常人ニ對スル暴行強迫ノ罪タルニ過キサルヘシ

但シ數多ノ場合ニ於テハ暴行強迫ノ所爲ハ同時ニ抗拒ノ所爲タルベシ○現行法ハ又抗拒ノ所爲ノ外第百三十九條第二項ニ一種ノ所爲ヲ加ヘ暴行強迫ヲ以テ官吏ノ爲スベカラサル事件ヲ行ハシムルノ所爲ヲ以テ抗拒ノ所爲ト同視セリ但シ法文甚タ曖昧ニシテ大ニ明晰ヲ欠クモノアリト雖此項ノ適用ハ只タ暴行強迫ニシテ未タ抗拒スヘカラサル強制ト云フヘキノ甚シキニ至ラス又其官吏ノ行ヒタル事件ニシテ他ノ犯罪タラサルトキニ限ルヘシ何トナレハ抗拒スヘカラサル強制ニ由リ官吏ニ犯罪ヲ爲サシメタルモノハ自ラ其罪ヲ犯シタルモノニシテ其罪ヲ以テ之ヲ論スヘケレハナリ論者往々之ヲ以テ本條ノ罪ト官吏ヲシテ或事ヲ行ハシメタル犯罪トノ刑罰其權衡ヲ失セシムルモノトシテ批難ヲ下スモノナキニアラスト雖官吏ヲシテ行ハシメタル犯罪輕小ナレハ輕小ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スヘシ重大ナレハ重大ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スヘシ必スシモ同一ナル本條ノ刑ヲ科スルノ必要アルヲ見ス故ニ本條ハ抗拒シ得ヘキ暴行強迫ニ依リ官吏ニシテ罪トナラサル事件ヲ

山田評立法論ニ失スルノ弊ナキヤ

行ハシメタルノ所爲トスルヲ適當トス

〔刑罰〕抗命ノ罪ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其官吏ヲ毆傷スルニ至リタルモノハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ特別ノ罪トシテ之ヲ處斷ス(第百三十九條及ヒ第百四十條)

第二節　官吏侮辱ノ罪

官吏侮辱ノ罪トハ官吏ノ職務ニ對シ刊行ノ文書圖畫若クハ公然ノ演說又ハ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱スルノ所爲ヲ云フ(第百四十一條)モノニシテ官吏ノ名譽ヲ誹毀スルノ罪トス

〔物體〕官吏侮辱罪ノ物体タルヘキモノハ官吏ノ官吏タル資

格ニ於ケルノ名譽ニシテ公平正直ナルコト官吏タルノ技倆能力アルコト等ヲ指ス故ニ官吏タルノ名譽ト常人ノ名譽トハ自ラ相異ナル所アルヘシ設例ヘハ「不公平若クハ不正ノ處分ヲ爲シタリ」トノ言語文書ハ官吏ニ對スル侮辱タルヘキモ常人ニ對シテ誹毀若クハ罵詈ノ罪タルコト甚タ僅少ナラン法文ニ「其職務ニ對シ」云々ト明言セルモ亦官吏ノ官吏タル資格ニ於ケル名譽ヲ指示セルモノニ外ナラサルヘシ否ラスンハ則チ其意ノ何レニ在ルヲ知ルコト能ハサルノ空文タラントス然レトモ官吏モ通常一樣ノ常人タルニ過キサルヲ以テ素リ常人タルノ名譽ヲ併有スト雖其名譽ヲ毀損シタル場合ニ於テハ單ニ之ヲ常人ニ對スルノ

罪トセサルヲ得ス但シ官吏タルコトヲ知リ其職務ノ執行中ニ於テ常人タルノ名譽ヲ毀損シタルトキハ之ヲ官吏侮辱ノ罪トセサルヲ得ス蓋シ此場合ニ於テハ常人タルノ資格ト官吏タルノ資格トハ之ヲ一身ニ合併シ同時ニ之ヲ有スルモノナレハ常人タルノ名譽ヲ害スル者ハ即チ又タ兼ネテ官吏タルノ名譽ヲ害スヘシ之レヲ皇室ニ對スル犯罪ニ照セハ恰モ私怨ヲ以テ一國ノ君主ニ危害ヲ加フルモノハ同時ニ主權者ヲ害スル國事犯トスルノ理ニ異ナラス

〔手段〕官吏ノ目前ニ於テハ形容若シクハ言語ヲ以テスルコトヲ要シ其目前ニアラサル者ハ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テスルコトヲ要ス故ニ印行セサル文書又ハ偶像演劇ヲ作爲シテ之ヲ行フモ官吏侮辱ノ罪ヲ構成スルコトナシ（公然ノ演說ノ何物タルニ就テハ後篇名譽ニ對スル罪ヲ論スルノ條ヲ見ルヘシ）

〔所爲〕侮辱ノ所爲ハ名譽ヲ毀損スヘキ言語文書等ヲ公ケニスルヲ云フ語ヲ換ヘテ之ヲ云ハヽ侮辱ヲ受クル官吏以外ノ三者ニ之ヲ知ラシメ又ハ三者ノ知リ得ヘキ場所ニ於テ之ヲ公表スルヲ云フ故ニ侮辱即チ加害ノ所爲ハ公表スルノ所爲ニシテ名譽ヲ毀損スヘキ言語ヲ發シ又ハ文書ヲ作爲スル等ノ所爲ニアラス設例ヘハ公示ノ書狀ヲ用ヒス密封シタル文書ヲ以テ官吏ノ私邸ニ送付スルカ如キハ素リ此罪ヲ構成スルコトナキカ如シ○又此罪ハ誹毀罪ト異ニシテ惡事醜行等事實ヲ摘發スルコトヲ要セサルヲ以テ事

罪トセサルヲ得ス但シ官吏タルコトヲ知リ其職務ノ執行中ニ於テ常人タルノ名譽ヲ毀損シタルトキハ之ヲ官吏侮辱ノ罪トセサルヲ得ス蓋シ此場合ニ於テハ常人タルノ資格ト官吏タルノ資格トハ之ヲ一身ニ合併シ同時ニ之ヲ有スルモノナレハ常人タルノ名譽ヲ害スル者ハ即チ又タ兼ネテ官吏タルノ名譽ヲ害スヘシ之レヲ皇室ニ對スル犯罪ニ照セハ恰モ私怨ヲ以テ一國ノ君主ニ危害ヲ加フルモノハ同時ニ主權者ヲ害スル國事犯トスルノ理ニ異ナラス

〔手段〕官吏ノ目前ニ於テハ形容若クハ言語ヲ以テスルコトヲ要シ其目前ニアラサル者ハ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テスルコトヲ要ス故ニ印行セサル文書又ハ偶像演劇ヲ作爲シテ之ヲ行フモ官吏侮辱ノ罪ヲ構成スルコトナシ（公然ノ演說ノ何物タルニ就テハ後篇名譽ニ對スル罪ヲ論スルノ條ヲ見ルヘシ）

〔所爲〕侮辱ノ所爲ハ名譽ヲ毀損スヘキ言語文書等ヲ公ケニスルヲ云フ語ヲ換ヘテ之ヲ云ハヽ侮辱ヲ受クル官吏以外ノ三者ニ之ヲ知ラシメ又ハ三者ノ知リ得ヘキ場所ニ於テ之ヲ公表スルヲ云フ故ニ侮辱即チ加害ノ所爲ハ公表スルノ所爲ニシテ名譽ヲ毀損スヘキ言語ヲ發シ又ハ文書ヲ作爲スル等ノ所爲ニアラス設例ヘハ公示ノ書狀ヲ用ヒス密封シタル文書ヲ以テ官吏ノ私邸ニ送付スルカ如キハ素リ此罪ヲ構成スルコトナキカ如シ○又此罪ハ誹毀罪ト異ニシテ惡事醜行等事實ヲ摘發スルコトヲ要セサルヲ以テ事

實ノ有無ヲ問フノ必要ナシ（後篇誹毀罪ノ條ヲ參照セヨ）是レ法文ノ特ニ之ヲ明記セサル所以ナリ

（刑罰）官吏侮辱ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二章　囚徒逃走ノ罪

已決ノ囚徒ニ對シテ法律ハ決シテ刑ノ執行ヲ受クルノ義務ヲ負ハシムルモノニアラス抑モ刑罰ハ法律終局ノ制裁ニシテ國家ハ宜シク其實力ヲ以テ刑罰ヲ執行スヘク若シ法律ノ制裁ニ法律上ノ義務ヲ以テスルコトアラハ法律ノ制裁ハ果シテ何ノ處ニ到リテ其局ヲ結フヘキモノタルヲ知ラサルニ至ルヘキハ已ニ汎論ニ於テ之ヲ詳述セリ已決囚逃走ノ罪ヲ問フカ如キモ亦法律ノ制裁ニ法律ヲ以テスルノ嫌ナキニアラサルナリ刑罰執行ノ任ニ當ルモノハ宜シク獄舍ノ外圍ヲ堅固ニシ規律ヲ嚴ニシ實力ヲ以テ刑罰ノ執行ヲ爲サシムヘカラス否ラスンハ囚徒モ亦實力ヲ以テ逃走スヘキハ當然ナリ若シ獄舍ニシテ外圍ヲ設ケス看守ヲ置カス法律ヲ以テ凡テ刑ニ處セラレタル者ニ對シ自ラ某所ニ其身ヲ置クヘキコトヲ命シ若シ此命ヲ奉セス逃走スルモノアルトキハ某ノ刑罰ニ處スヘシト云ヒ再ヒ其ノ刑罰ニ服セサルモノアルトキハ更ニ之ヲ某ノ刑罰ニ處スヘキコトヲ命スルモ實力ヲ以テ之ヲ實行スルコトナクンハ法律ハ只タ命令ノミニ止マリ遂ニ其制裁ノ實行ヲ見

ルコトナキニ至ルヘシ但シ未決囚徒ニ對シテハ刑罰ヲ執行スルモノニアラサルヲ以テ此批難アルコトナシ故ニ理論上ヨリスルトキハ囚徒逃走ニ關スル罪ハ逃走ノ囚徒ノ外他人ニシテ囚徒ヲ逃走セシメ若クハ其逃走ヲ幇助シ又ハ已決ノ囚徒ニ在ツテハ獄舍ヲ破壞シ暴行强迫ヲ爲シテ逃走シタル者等凡ソ官權ノ執行ニ抗拒スルモノヲ罰スルヲ以テ其本旨トス是レ獨佛法律カ囚徒逃走ノ罪ヲ認メス只タ之ヲ獄則違反トスル所以ナリ尤モ我刑法ニ於テハ囚徒逃走ノ罪ヲ主トシテ其成規ヲ定メタルニ係ハラス却ツテ從犯即チ囚徒ノ逃走ヲ幇助シタル者ヲ罰スルニ囚徒逃走罪ヨリ重キ刑ヲ以テスルニ至リテハ又以テ立法官ハ良心ヲ知ルニ足レリ(第百四十二條及ヒ第百四十六條第百四十七條對照)

(主體)已決未決ノ囚徒即チ法律ノ命スル所ニ從ヒ司法處分ニ依リ獄舍ニ在ルモノニアラサレハ此罪ヲ犯スコトヲ得ス故ニ一時警察其他ノ官署ニ留置セラレタル者又ハ行政處分ニ出テタル懲罰(設例ヘハ特別法ヲ以テ行政處分ニ委ヲラレタル賭博犯處分)ニ處セラレタル者ノ如キハ囚徒逃走ノ罪ヲ以テ之ヲ論スルコトヲ得ス但シ之ニ反シタル一二ノ實例ナキニアラサルカ如シ○此犯罪ノ主體タルヘキモノハ斯ク特別ノ資格ヲ要スルカ故ニ已決囚徒ノ逃走シタル場合ニ於テハ初犯ノ刑罰ニ對シテ常ニ再犯タルヲ以

テ我刑法ハ刑期限内再ヒ逃走シタルモノニアラサレハ再犯ヲ以テ論スルコトナキ旨ヲ明定セリ但シ未決ノ囚徒ニ係ル場合ハ原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス(第百四十三條及ヒ第百四十四條)○囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示スル罪(第百四十六條)及ヒ囚徒ヲ刼奪シ又ハ暴行强迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助クルノ罪(第百四十七條)ニ就テハ何人ト雖其主體タルコトヲ得ヘク暴行ノ手段ニ依ラス單ニ囚徒ヲ逃走セシメタル罪(第百四十八條)及ヒ懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル罪(第百五十條)ニ就テハ看守又ハ護送者ノ外其主體タルコトヲ得ス又タ通謀逃走ノ罪(第百四十五條)ニ就テハ囚徒三人以上タルコトヲ要ス

(手段)此犯罪ノ手段ニ就テハ特ニ論スヘキモノナシト雖獄舍器具ヲ破壞シ又ハ暴行强迫ノ手段ニ出テタルトキハ其刑ヲ重フシ之ヲ特別ノ罪トナス(第百四十二條第二項及ヒ第百四十七條)但シ此ノ暴行強迫ハ逃走ノ際其手段トシテ看守又ハ護送者等刑罰執行ノ任アル官吏ニ對シテ施シタルモノナルヲ要ス

(物體)此犯罪ノ物體ハ國家ノ刑罰執行權ナルヲ以テ囚徒逃走ノ場合ニ於テハ囚徒自ラ此權ヲ侵シ囚徒刼奪又ハ逃走幇助ノ場合ニ於テハ何人ト雖其犯者タルモノ此權理ヲ侵害ス

〔所爲〕國家ノ刑罰執行權ニ抗拒スルノ所爲ハ即チ此犯罪タル所爲ヲ構成スルモノニシテ逃走又ハ囚徒劫奪等ノ諸所爲ヲ指ス然レトモ前已ニ論述セルカ如ク獄舍器具ヲ破壞セス又ハ官吏ニ對シ暴行強迫ヲ用ヒサル單純ナル已決囚逃走ノ罪ノ如キハ別ニ積極的ナル抗拒ノ所爲ナシト雖單ニ國家ノ權ニ服從セサルノ所爲即チ消極的ノ抗拒アルモノトスルノ外ナカルヘシ

〔刑罰〕逃走ニ關スル犯罪ニ就テハ重罪ノ囚徒ヲ劫奪スルノ罪ヲ以テ最モ重トナシ之ヲ輕懲役ニ處シ犯狀ノ輕重ニ從ヒ漸次其刑ヲ減シ單然タル逃走罪ニ至リテハ之ヲ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ其輕罪ニ係ルモノト雖尚ホ未遂犯罪ヲ處罰ス但シ懈怠ニ出テタル犯罪ハ單ニ之ヲ財產刑ニ止メ且ツ其未遂犯罪ヲ罰スルコトナシ(第百四十二條乃至第百五十條)

第三章　罪人藏匿ノ罪

本章ニ於テハ罪人タルコトヲ知テ之ヲ藏匿スルノ罪及ヒ他人ノ罪ヲ免カレシムル爲メ其罪證ヲ隱蔽スル罪(第百五十一條及ヒ第百五十二條)ヲ論述ス

〔主體〕此犯罪ハ藏匿若クハ隱蔽セントスル罪人ノ親屬ニ係ル者ノ外何人ト雖其主体タルコトヲ得ヘシ然レトモ此罪ノ如キ國家ノ權力ヲ害シ公益ニ重大ノ關係ヲ有スルモノニ在ツテハ親屬相愛ノ情誼ニ過キサル道德上ノ理由ヲ以

藏匿隱蔽ハ犯人ノ逃脫モ豫備ノ所爲ナル以テ犯罪ノ容易ナル可カラスト云フメタル可カラスノ故ニ豫約アル場合ニ從犯ト雖普通ノ場合ニハ總テ普通ノ犯罪ニ似タリ

テ持ニ親屬ニ係ル場合ノ罪ヲ論セサルハ理論ニ適シタルモノニアラサルナリ故ニ又此等ノ犯罪ハ特別ナル一種ノ犯罪ニシテ他ノ犯罪ノ從犯タルヘキモノニアラス事後ニ從犯ナキ所以ハ已ニ汎論ニ於テ之ヲ詳述セリ但シ罪人其罪ヲ犯スノ前ニ於テ豫メ之ヲ藏匿シ又ハ罪證タルヘキ物件ヲ隱蔽セシコトヲ約シタル場合ニ於テハ即チ純然タル從犯ノ所爲タルヲ以テ犯人ノ親屬ニ係ル場合ト雖從犯トシテ尚ホ其罪ヲ論セサルヲ得ス(第百五十三條)

(物體)被害ノ物體ハ國家ノ犯罪搜査ノ權ナルヲ以テ官署ノ逮捕シ又ハ搜査セントスル所ノ者即チ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及被監視者又ハ罪證トナルヘキ物件ヲ以テ此犯罪タル所爲ニ直接ナル物體ナリトス故ニ第百五十一條ノ所謂犯罪人ナルモノハ眞ノ犯罪人タルト否トヲ問ハス苟モ官ノ搜査ニ係ルモノヲ總稱スルヲ以テ立法ノ精神トスレトモ法文中特ニ犯罪人ト明言シタル以上ハ法律ニ於テ之ヲ犯罪ト認ムルモノニアラサレハ此犯罪ノ物體タルコトヲ得サルヘシ然レトモ此罪ハ贓品故賣ノ罪ト同シク別種ノ一罪ニシテ他ノ罪ノ從犯ナルニアラサルヲ以テ此罪ヲ處斷スルニハ必スシモ本罪ノ物體タル犯罪人ニシテ確定ノ裁判ヲ經タルノ後タルコトヲ要セス判官ハ犯人藏匿ノ罪ヲ判定スルノ當時ニ於テ單ニ此罪ヲ處斷スルノ目的ニ於テノミ藏匿セラレタル犯罪人ノ果シテ法律上ノ犯罪者タ

ルヤ否ヤヲ定メ以テ其裁判ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス而シテ此場合ニ於テハ一方ノ裁判ニ於テハ之ヲ犯罪人ト認メ一方ノ裁判ニ於テハ之ヲ犯罪ニアラスト認メ二個ノ裁判相觝觸スルコトアルヘキモ裁判ハ素リ各事件ニ就キ其ノ言渡ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ敢テ顧慮スル所ナカルヘシ其ノ罪證トナルヘキ物件タルヤ否ニ就テモ亦同シ蓋シ裁判上ノ不權衡ハ特典其他異常ノ手續ニ依ルノ外他ニ之ヲ醫スルノ道ナキモノト知ルヘシ但シ犯罪人ヲ藏匿シ又ハ罪証トナルヘキ物件ヲ隱蔽シ爲メニ其ノ犯罪人ヲシテ刑罰ヲ免レシメ又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケシメタルトキハ眞ニ犯人藏匿犯罪曲庇ノ目的ヲ達シタルモノナルカ故ニ此犯者ニ對シテ言渡サレタル有罪ノ裁判ト藏匿又ハ曲庇ノ目的タリシ犯人ニ對シテ言渡サレタル無罪ノ裁判ト觝觸スルモ特典其他ノ方法ヲ用ヒテ之ヲ救濟スルコトナク二個ノ裁判ヲシテ共ニ不權衡タラシムルコソ却テ刑罰適用ノ妙ヲ得タルモノト謂フヘシ

〔犯意〕法文ニ明言セルカ如ク犯人藏匿ノ罪ハ犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及監視ニ付セラレタル者タルヲ知ルコトヲ要ス而ルニ某々ノ人ハ犯人ナルヤ否ヲ知ルト知ラサルトハ即チ事實ヲ知ルト知ラサルトニ外ナラサルヲ以テ特ニ明文ヲ掲クルニ及ハス總則第七十七條第二項ヲ適用シテ足ラサル所ナキヲ以テ或ハ此犯罪ニ就テハ更ニ一歩ヲ進メ尙

ホ法律ヲ知ラサル場合ニ適用スルコトヲ得ヘキモノトスルノ疑ナキヲ得ス設例ヘハ某々ノ人ハ斯ク々々ノ所業ヲ爲シタルモノタルコトヲ知リ之ヲ藏匿スルモ其所業ハ法律ニ觸ルヽモノニアラスト信シタル場合ノ如キ是レナリ然レトモ法律ノ不識ハ犯罪ノ責任ヲ逃ルヽノ源因ニアラサルハ刑法一般ニ適用スヘキ原則ニシテ苟モ法律ニシテ効力アル以上ハ犯人之ヲ知ラサルノ故ヲ以テ其効力ヲ空フセシムルコトヲ得サルナリ蓋シ本條ノ犯罪ハ之ヲ犯人藏匿ノ所爲ト云ハンヨリ寧ロ之ヲ犯人ヲ藏匿シテ其刑罰ヲ免レシムルノ所爲ト云フヘキモノタルヲ以テ法文ノ所謂「犯罪人又ハ逃走ノ囚徒タルコトヲ知ル」トハ犯人又ハ逃走ノ囚徒ヲシテ刑罰ヲ免レシムルノ故意ヲ以テスルノ意義ニ外ナラスト解釋シ疑キニ揭ケタル一例ノ如キモ亦惡意即チ刑罰ヲ免レシムルノ故意ナキモノトシテ之ヲ本條ノ罪ニ問ハサルモノトセム○罪證隱蔽ノ場合ニ於テモ亦右ニ論述スル所ト同一ノ理由ニ依リ法文ノ所謂他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖ルトハ單ニ他人ノ罪ヲ免レシムルノ故意タルコトヲ指示スルモノニ過キス

〔所爲〕藏匿トハ自己ノ管守内隱避トハ自己ノ管守外ニ於テ犯人ヲシテ官ノ發見ヲ避ケシムルノ所爲ヲ云ヒ隱蔽トハ罪證ヲ藏匿隱避スルノ所爲ヲ云フ

〔刑罰〕罪人藏匿ノ罪ハ十一日以上一年以下罪證隱蔽ノ罪ハ

六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ重罪ノ刑ニ處セラレタル四徒ノ藏匿ニ係ルトキハ一等ヲ加フ

第四章　附加刑ノ執行ヲ逃ルヽ罪

附加刑ノ執行ヲ逃ルヽ所爲ヲ罰スルニ更ニ他ノ刑ヲ以テスルハ囚徒逃走ノ罪ヲ罰スルト等シク理論上其當ヲ得タルモノニアラス若シ公權ヲ剝奪セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタルトキハ其制裁ハ即チ其所爲ヲ無効トスルカ若クハ他ノ刑名ニ觸ルヽモノタルニ外ナラサルナリ設例ヘハ政權ヲ剝奪セラレタルモノニシテ之ヲ行ヒ議會ノ議員ニ撰擧セラレタル時ハ其撰擧ハ單ニ無効ニ歸スルカ又ハ別

ニ身分詐稱ノ罪ヲ構成ス可ク外國ノ勳章ヲ佩用スル場合ニ於テハ之ヲ勳章僭用ノ罪ニ問フヘシ特ニ附加刑ノ執行ヲ遁ルヽノ罪ヲ設クルノ必要アルヲ見スト雖我刑法ハ附加刑中單ニ剝奪公權及ヒ停止公權ニ就キ其刑ヲ遁ルヽノ罪ヲ定メタリ(第百五十四條)但シ第百五十五條ノ場合ハ監視ノ執行ヲ遁ルヽノ罪ニアラスシテ監視規則違背ノ罪ヲ定メタルモノニ過キストス抑モ監視ハ只タ行政官署ニ於テ犯人ノ行狀品行ヲ視察スルモノニ外ナラサルヲ以テ犯者ハ如何ナル場合ニ於テモ其執行ヲ遁ルヽコトヲ得ス故ニ法律ニ監視ハ期滿免除ヲ得スト云ヒ監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス(第四十條及ヒ第六十條)ヘキモノ

奥田評
被監視者ノ逃走シタル場合ト雖仍ホ監視ヲ遁レタルモノニアラサルヤ

ト定メタリ蓋シ監視規則ノ執行ト監視自身ノ執行トハ其間大差アルヘキモノニシテ監視規則ハ只タ監視自身ノ執行即チ犯人ノ行狀ヲ視察スルニ便宜ナル爲メ特ニ設ケタル規則ニシテ監視ノ外尚ホ別ニ犯人ヨリ或ル權利ヲ剝キ又ハ或ル義務ヲ以テ犯人ニ負ハシメタルモノナリ故ニ刑法第百五十五條ハ監視規則ニ違背スルノ罪ヲ定メタルモノニシテ監視ノ執行ヲ遁ルヽ罪ヲ定メタルモノニアラサルナリ

此罪ヲ構成スル所ノ(主體)(物體)(所爲)等ニ就テハ特ニ說明ヲ要スヘキモノナシ而シテ其(刑罰)ニ就テハ私ニ公權ヲ行フノ罪ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ(監視規則違背ノ罪ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但シ此等ノ罪ハ囚徒逃走ノ罪ト等シク已ニ一タヒ處刑ヲ受ケタルモノニアラサレハ犯スコトヲ得サルヲ以テ刑期限內再ヒ犯シタルトキニアラサレハ再犯ヲ以テ論スルコトナシ(第百五十六條)

第五章　官ノ封印ヲ破毀スルノ罪

官ノ封印ヲ破毀スルノ罪ハ官廳ノ處分ヲシテ其効力ヲ失ハシムル犯罪ノ一種ナリ抑モ官廳ノ處分ヲシテ無効タラシムルノ罪ハ官ニ於テ公然揭示シタル官廳ノ公達告示又ハ命令書等ヲ破毀汚損スルノ罪其他封印ヲ破毀スル罪等其區域甚タ廣シト雖我刑法ハ其文書ニ係ルモノハ之ヲ官

文書僞造ノ一種トシ其他ニ在ツテハ之ヲ財產ニ對スル罪ヲ記載スルノ條下ニ附記シ只タ官ノ封印ヲ破毀スル罪ニ就キ特ニ一節ヲ設ケタリ(第百七十四條乃至第百七十六條)封印破毀ノ罪ハ甚タ單一ニシテ其構成ニ就テハ特ニ論述スヘキモノナシト雖法文解釋上一二ノ疑點ナキニアラス第一法文ニ「特別ニ施シタル封印」ト特記スレトモ特別トハ物件差押ヘ其他官ノ處分ノ目的ノ爲メニセルモノヲ指示スルニ過キスシテ特ニ他意アルニアラス第二封印ヲ破棄スルトハ單ニ印影ノ存在スル部分ヲ破棄スルニ止マラス廣ク一般人ニ對シテ封印ノ効力ヲ失ハシムルノ所爲ヲ指示セルモノト解セサルヲ得ス設例ヘハ茲ニ一條ノ繩ヲ以テ倉庫ニ繞ラシ倉庫ノ入口ニ至リテ官ノ封印ヲ施シタルニ際シ印影外ナル部分ヲ切斷シ之ヲ棄ツルモ尙ホ封印毀棄ノ罪アルヘシト雖若シ竊盜アリ地下ヲ穿ツテ倉庫ニ入リタルコトアルトキハ之ヲ封印ヲ毀棄シタルモノトスルコトヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ此ノ封印ニ對シテ再ヒ毀棄ノ罪ヲ犯スコトヲ得ヘク封印ハ尙ホ一般人ニ對シテ其効力ヲ存スレハナリ

封印破棄ノ罪ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ看守者自ラ犯シタルトキハ一等ヲ加ヘ其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ官印ヲ破棄シテ

其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(第百七十四條乃至第百七十六條)

第四款　政權ノ執行ニ抗拒スル罪

第一章　立法議會ノ議事ヲ妨害スル罪

立法議會ヲ解散シ若クハ不正ノ議決ヲ爲サシメントスルノ暴行又ハ暴行强迫若クハ詐僞等ニ依リ議員ノ議場ニ臨席スルコトヲ妨クルカ如キハ直接ニ國家ノ立法權ヲ害スルモノニシテ素リ之ヲ不問ニ附スヘキモノニアラスト雖我刑法ニ在テハ特ニ此等ノ罪ヲ規定セス故ニ其所爲ニシテ他ノ刑名ニ觸ルヽコトナキモノハ之ヲ罪トスルコトナシ尤モ今日ニ於テハ未タ國會ノ設ケナキカ故ニ現今ノ立法議會ハ即チ一ノ官廳ニシテ其議員モ亦一ノ官吏ナルヲ以テ多クハ之ヲ官吏ノ職務ヲ妨害スルノ罪ニ問フコトヲ得ヘシ

刑法第二百三十四條ノ場合即チ賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシムルノ罪ハ或ハ之ヲ不正ノ議決ヲ爲サシムルノ罪トスルコトヲ得ヘキニ似タレトモ同條ノ所謂投票ナルモノハ單ニ公選ノ投票即チ選擧ノ目的ノミニ出テタル投票ヲ指示スルモノニ止マレリ

第二章　公選ノ投票ヲ僞ルノ罪

公選ノ投票ヲ僞ルノ罪ハ公選ノ投票ヲ僞造增減シ又ハ賄

賂ニ依リテ投票ヲ爲シ又ハ投票ノ結果ニ付キ詐僞ノ所爲アルモノヲ指示ス(第二百三十三條乃至第二百三十六條)

(主體)公選ノ投票ヲ僞造シ又ハ其數ヲ增減スルノ罪ハ第二百三十三條ノ場合ニ於テハ何人ト雖其犯罪ノ主體タルコトヲ得何トナレハ選舉人ヲシテ盡ク投票ヲ爲スコトヲ强ユルコトナキ投票又ハ無名投票等ヲ爲スノ場合ニ於テ選舉人名簿ニ記載ナキモノト雖投票ニ依リ投票ノ數ヲ增減スルコトヲ得レハナリ但シ第二百三十五條及ヒ第二百三十六條ノ場合ニ於テハ投票檢査又ハ結果報告ノ任アルモノニ限リ第二百三十四條中賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲スノ罪ハ選舉人ニアラサレハ之ヲ犯スコトヲ得ス

(物體)公選ノ投票トハ公ケノ事務ニ關スル選舉ノ標章ノ義ナリ公選トハ府縣會町村會其他公ケノ認了ヲ得タル公會ノ選舉ヲ云ヒ投票トハ選舉ノ記號ニシテ本書ノ選舉錄(プロトコル)ヲモ包含ス

(手段)第二百三十四條ノ場合ニ於テハ賄賂ノ手段ニ依リ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票シタルコトヲ要ス但シ賄賂ヲ授受スルノ契約ニ止マルトキハ一般此罪ヲ構成スルコトナカルヘシト雖契約ノ手附又ハ內拂トシテ現ニ幾分ヲ授受シタルトキハ賄賂トシテ之ヲ論スルコトヲ得

(所爲)此罪ノ所爲ハ凡ソ三種ヨリ成立ス第一ハ投票ノ僞造第二ハ其數ノ增減(第二百三十三條)第三ハ投票ノ結果ヲ詐

ルノ所爲(第二百三十六條)ニシテ執レモ此等ノ所爲ニシテ存スル以上ハ現ニ不當ナル選擧者ヲ選擧スルノ結果アルヲ要セス且ツ賄賂ノ手段ニ依リ投票ヲ爲スノ所爲ハ避止即チ賄賂ヲ以テ人ニ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲サヽルノ所爲ヲ包含スルコトナカルヘシ

第五款　官吏瀆職ノ罪

第一章　總說

官吏瀆職ノ罪ハ犯罪ノ性質又ハ官吏ノ種類ニ依リ之ヲ區別スルヲ以テ學者ノ定說トス即チ犯罪ノ性質ノ點ニ於テハ純然タル職務上ノ犯罪ト常事ト職務ト混同セル犯罪トニ區別シ往々純然タル職務上ノ犯罪ヲ稱シテ適當ノ意義

プランシユ氏著佛國刑法第三卷第六八〇葉

ツツケル氏著官吏瀆職罪論

コーン氏著公務上犯罪論

ニ於ケル瀆職ノ罪ト云フ又タ官吏ノ種類ノ點ニ於テハ一般官吏ノ犯罪ト特種ナル官吏ノ犯罪トニ區別ス然レトモ我刑法ハ更ニ一種ノ區別ヲ設ケ第一官吏公益ヲ害スル罪第二官吏人民ニ對スル罪第三官吏財產ニ對スル罪ノ三節ト爲シ純然タル職務上ノ犯罪ト混同ノ犯罪ナルトヲ問ハス又一般官吏ニ係ルモノト特別ノ官吏ニ係ルモノトヲ論セス其ニ之ヲ同一節ニ混入セリト雖自ラ此等ノ區別アルヘキハ當然ナリ故ニ予ハ今便宜上ヨリ現行刑法ノ區別ニ從ヒ之ヲ論スヘシト雖瀆職罪一般ニ通スヘキ原則ニ就キ先ツ豫メ注意スヘキ要點ヲ揭ケ而シテ後其本論ニ入ラント欲ス

〔第一〕一般ノ官吏トハ直接間接ヲ問ハス又タ有給無給ヲ論セス總テ日本帝國ノ國務ニ從事スル吏員ヲ云フ故ニ官制ニ認ムル吏員ノ外巡査及ヒ政府ノ行政處分ヲ兼行スルノ任アル市邑吏員ヲ包含ス但シ議員、公吏、宮中ノ私吏、兵卒、及ヒ政府ノ事務ヲ行フノ任ナキ自立共同體ノ吏員ハ瀆職罪ノ主體タルコトヲ得サルナリ

〔第二〕純然タル職務上ノ犯罪ニ就テハ必ス故意アルヲ要スルモ惡意アルヲ要セス其過失怠慢ニ係ルモノハ刑法上ノ犯罪ニアラス單ニ之ヲ官吏懲戒令ニ照シテ處分スルニ止マルヘシ第二百八十一條ノ如キハ怠慢ヲ罰スルニ似タレトモ是レ純然タル職務上ノ犯罪ニアラサルナリ

〔第三〕常事職務二者混同ノ犯罪ハ官吏職務ヲ濫用シテ常人ト雖モ罪トナルヘキ所爲ヲ行フモノナルヲ以テ特ニ犯意ノ如何ヲ茲ニ論述スルノ必要ナシ何トナレハ常人ノ犯セル罪ニ就キ故意ヲ以テ足レリトスルモノナラハ官吏之ヲ犯スモ亦故意アルヲ以テ充分ナルヘク惡意ヲ必要トスルモノナラハ官吏之ヲ犯スモ亦惡意アルヲ必要トスルニ過サレハナリ設例ヘハ盜罪ニ要スル惡意ハ第二百八十九條ノ場合ニ於テモ亦異ナルコトナキカ如シ

〔第四〕混同ノ犯罪ニ就テハ主體ノ外其犯罪ノ手段物體所爲等ニ至リテモ亦常人ニ係ル犯罪ト異ナルコトナク只タ立法上其刑ヲ加重シ特ニ之ヲ一種ノ重キ罪トスルモノニ過

キサルナリ

故ニ官吏瀆職ノ罪ニ就キ特ニ論述スルコトヲ要スルハ前述ノ外特別ノ官吏ニ係ル純然タル職務上ノ犯罪及ヒ混同ノ犯罪ニ就テハ僅カニ其主體ノ何物タルヲ指示スルニ止マルヘキヲ以テ予ハ簡略ニ從ヒ盡ク之ヲ主體物體手段等ニ分析詳論スルコトナカルヘシ

第二章　官吏公益ヲ害スル罪

〔第一〕法律規則ヲ公布施行スルノ義務アル官吏其義務ヲ擧行セス又ハ一般ノ官吏ニシテ之ヲ妨害シタルモノハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス法文ニ「官吏其管掌ニ係ル」ト云フハ公布施行ノ義務アル官吏タルコトヲ指シ之ニ反シテ其公布施行ヲ妨害シタル犯罪ノ主體ハ此ノ義務アルモノニ止マラス廣ク一般ノ官吏ヲ指示ス（第二百七十三條）

〔第二〕兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏兵權ヲ以テ鎮撫スヘキ時ニ當リ其處分ヲ爲サヽルモノハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス之ニ反シテ陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ以テ其刑ニ輕重ヲ設ケタルハ敢テ特別ノ理由アルヲ發見スルコト能ハサルノミナラス陸海軍ノ將校

ニシテ出兵ヲ肯セサルノ所爲ハ官權ヲ行ハサルノ所爲タルニ之ヲ公務ヲ行フヲ妨害スルノ罪トナシ公ト官トヲ混同シタルカ如キハ能ク國家ト社會トノ範圍ヲ明別シタルモノニアラス(第二百七十四條及ヒ第百七十七條)

(第三)我刑法ハ一般ノ官吏ニシテ官吏ニ對シテ禁止シタル商業ヲ行ヒタルトキハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノト定(第二百七十五條)メタレトモ凡ソ此等ノ所爲タル之ヲ懲戒令ニ照シ處斷スルヲ以テ充分トシ特ニ刑法ノ制裁ヲ要スルニ足ラサルモノヽ如シ故ニ已ニ汎論ニ於テ論述シタル理由ニ從ヒ此犯罪ノ共犯タル常人モ亦之ヲ此罪ノ共犯トシテ罰スヘキモノナレトモ往々之ヲ以テ其例外トスルヲ適當トスルノ論者アルヲ見ルニ至レリ若シ又收稅官會計吏等ニ係ルトキハ之ヲ刑法ニ問フノ必要アリトスルモ之ヲ一般ノ官吏ニ及ホスカ如キハ印度刑法及ヒ現行刑法ノ外未タ其例アルヲ見サル所ナリ○官吏ニ對シテ禁シタル商業ノ何物タルハ之ヲ其ノ規則ニ照シテ始メテ知ルコトヲ得ヘキモ苟モ之ニ刑法ノ制裁ヲ附シ理論上常人ニシテ其共犯タル者ノ罪ヲ問フニ至リテハ其規則タル宜シク人民一般ニ對シテ公達シタルモノタラサルヘカラス○本條商業ヲ爲シタル者ノ所爲ヲ罰スルニ在ルヲ以テ商業ニアラサルモノニ至リテハ如何ナル規則アリトモ懲戒令ヲ以テ之ヲ處斷スルハ格別之ニ刑法ノ制裁ヲ

加フルコトヲ得ス故ニ官吏ニシテ規則ニ反シ職業ヲ營ム
モ之ヲ只タ其規則ノ違反トシテ懲戒ヲ加フルコトヲ得ル
ニ過キス蓋シ職業ト商業トハ其間自ラ區別ノ存スルモノ
アリ決シテ輕々看過スルコトアルヘカラス職業トハ自由
ヲ備ヘタル物體即チ人類ヲ相手トスル人類ノ活動ヲ云ヒ
商業トハ自由ヲ備ヘサル物體即チ天造物又ハ人工ヲ加ヘ
タル天造物ヲ相手トスル人類ノ活動ヲ云フモノニシテ一
ハ智能ノ活用ニ基キ一ハ勞力ノ活用ニ基クヘキモノトス
設例ヘハ官吏、代言人、教師、醫師、著述家タルノ事業ハ職業ナ
ルモ製造、農工、運輸等ノ事業ハ商業ナリ故ニ此ノ罪タル只
タ規則ヲ以テ禁セラレタル商業ヲ爲スノ所爲タルコト止マ

ヒエスレル氏著社會行政法第一卷第五節

ルヘシ

第三章　官吏人民ニ對スル罪

(第一、威權濫用ノ罪)一般ノ官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其
權理ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權理ヲ妨害シタル
モノハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十
圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百七十六條)然レトモ此法文タ
ル頗ル曖昧ニシテ明切ヲ欠クモノアルヲ以テ宜シク其精
神ヲ磨出スルニアラサレハ充分ノ意義ヲ爲サヽル無用ノ
法條タルニ至ルヘシ故ニ予ハ此法文ヲ解スルニ當リテハ
其所謂「擅リニ威權ヲ用ユル」トハ法律上ノ規程ニ反シ其職
權ヲ濫用シ又ハ職權ヲ濫用セントシ脅迫スルノ意義ト爲シ

「權利ナキ事ヲ行ハシムル」トハ權利ト相對立スヘキ義務ヲ指シタルモノニシテ即チ應ニ爲スヘキ義務ナキ事ヲ行ハシメタルモノトスルヲ以テ適當ナリトセム

(第二、被害者ヲ保護スルヲ怠ルノ罪)人ノ身体(生命、身体、自由名譽)財產ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サヽル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百七十七條)凡ソ此等ノ官吏ハ現行犯罪ノ通知ヲ得テ犯人ノ搜查其他證據ノ取調等ヲ爲スノ義務アルハ其當然ノ職分タリト雖本條ハ更ニ此等ノ官吏ニ負ハシムルニ被害者ヲ保護スルハ義務ヲ以テセリ是レ本條ヲ以テ特ニ官吏ノ人民ニ對スル犯罪中ニ加入セル所以ナラン然レトモ現行犯罪ニシテ且ツ犯人ノ猶ホ犯罪ヲ執行スルノ際ニアラサレハ保護ノ處分ヲ施スコト能ハサルヲ以テ本條ヲ適用スルノ場合極メテ僅少ナラム

(第三、官吏人ヲ監禁スル罪)逮捕官吏司獄官吏監禁ノ罪ヲ犯シタルモノハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ監禁日數十日ヲ過クル每ニ一等ヲ加フ若シ此等ノ官吏及護送者ニシテ苛刻ノ所爲ヲ施シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス依テ其囚人ヲ死傷ニ致シ又ハ水火震災ノ際囚人ヲ監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ之ヲ死

傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ノ加ツ(第二百七十八條乃至第二百八十一條)但シ司獄官吏ニ就テハ法律上囚人ヲ出獄セシムヘキ時ニ至リ之ヲ放免セサル者モ尚ホ監禁ノ罪ヲ犯シタルモノトナシ又水火震災ノ際過失ヨリアラス故意ヲ以テ囚人ノ監禁ヲ解カサルトキハ謀殺若クハ故殺ノ罪ヲ爲スヘシ何トナレハ水火震災ニ際シ之ヲ其變災ニ放任スルトキハ自然ノ結果トシテ自由ヲ奪ハレタル囚人ヲ死傷セシムルニ至ルヘキハ司獄官吏ノ熟知スル所ナリ而シテ自ラ知ツテ故意ニ之ヲ解放セサルニ至テハ囚人ノ死ヲ欲スルノ意ナキモ之ヲ殺スノ意ナキモノトスルコトヲ得サルナリ

(第四)受理審理ヲ拒ムノ罪)民刑ノ訴ヲ受理審理スヘキ任アル官吏權理ナクシテ其訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百八十三條)

(第五)賄賂收受ノ罪)賄賂收受ノ罪ハ官吏ニシテ其職務ヲ執行スルノ報酬若クハ原因トシテ適法ノ報償ノ外他ニ或ル滿足ヲ受ケ又之ヲ受ケンコトヲ承諾スルノ罪ヲ云フ今マ之ヲ分析詳說スルコト左ノ如シ

一、(主體)此罪ハ官吏ニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス英獨ノ法律ニ於テハ賄賂ヲ授受スルモノハ共ニ其罪アリトシ特ニ英國法ニ於テハ或ル官吏ヲシテ職務上ノ

メイ氏英國刑法第八一葉獨逸刑法第三百三十四條

事ヲ爲サシメンカ爲メ私人相互ニ金錢ヲ授受スルモノヲ以テ尚賄賂ノ罪アリトスレトモ我刑法ハ政畧上賄賂ヲ受クル所ノ官吏ノミニ限リ之ヲ授クルモノヲ罰スルコトナシ何トナレハ若シ授受者ヲ併セテ其罪アリトスルトキハ其犯罪ノ發覺極メテ難キニ至ルヘケレハナリ○斯ク此罪ハ官吏ニアラサレハ犯スコトヲ得サルヲ以テ若シ數日數月後現ニ官吏ニ採用セラルヘキ者賄賂ヲ受クルモ之ヲ罰スルコトヲ得サルヘシ但シ官吏ニ採用セラルヘキ見込アリト詐稱シタル場合ニ於テハ之ヲ詐僞取財ノ罪ニ問フコトヲ得

二、(物體)滿足トハ必スシモ金錢若クハ財産上ノ利益ヲ得

メヤン氏著印度刑法註解第百六十一條

ホッハンホッフ氏著獨逸刑法第七七九葉

有スルノミニ限ラス卑重ノ饗應ヲ爲シ若クハ男女ノ情合ヲ約シ若クハ犯人ノ親族等ヲ以テ官吏其他ノ職ニ採用シ又ハ已ニ犯人ノ負フタル義務ヲ釋放スル等ノ事ヲ包含ス然レトモ此等ノ滿足タル凡テ官吏カ法律上ニ得有スルコトヲ得ヘキ報酬タルニ於テハ賄賂罪ノ物体タルコトヲ得サルハ當然ナリ

三、(所爲)單ニ滿足ヲ受ケ又ハ之ヲ受クルノ承諾ヲ爲スノ所爲ヲ以テ此罪ヲ構成スルニ充分トシ敢テ官吏カ此滿足ノ報トシテ或ル不法ノ處分ヲ爲スコトヲ要セス故ニ司獄官吏ニシテ死刑執行ヲ爲スコト僅ニ數分時前ニ於テ死囚又ハ其他ノ者ヨリ贈與ヲ受取ルモ尚此

スチーブン氏著英國刑法第八九條

罪ヲ爲スヘシ若シ又刑法ニ定メタル特別ノ官吏ニシテ現ニ不法ノ處分ヲ爲スニ至リタルトキハ之ヲ枉斷罪トシテ論スルコトヲ得○此罪ヲ以テ或ハ官吏ノ職務ヲ執行スルノ前ニアラサレハ成立スルコト能ハサルモノトスレトモ實際英國法ノ如ク其時ノ前後ヲ問ハサルモノトスルニアラサレハ賄賂ノ弊害ヲ防止スルニ足ラサルナリ但シ官吏ニ與フヘキ滿足ニ對スル報酬ハ官吏ヲシテ其職務ヲ行ハシメントスルニ在レトモ其行ハントスル所ノ處分自身ハ敢テ不法ナルト否ラサルトヲ問ハサルナリ

四、(犯意)此犯罪ヲ構成スルニハ即チ犯人ニシテ賄賂ヲ贈ル所ノ者ノ希望スル處分ヲ行ハントスルノ意思アルヲ要セス、ト雖贈與者ノ爲ニスル所ノ意思アルヲ知ルコトヲ要ス但シ苟モ官吏ニシテ賄賂ヲ受クル以上ハ一般贈與者ノ意思ヲ知ルモノト推定セラルヘシ

五、(種類及ヒ刑罰)賄賂罪ハ其ノ主體即チ官吏ノ種類ニ依リテ其ノ罪刑ヲ異ニスルコト左ノ如シ但シ何レノ場合ニ於テモ已ニ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收シ費用シタルモノハ其價ヲ追徵ス(第二百八十八條)

(イ)一般ノ官吏ニ係ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百八十四條)

(ロ)民刑事裁判官檢事警察官吏ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百八十五條第一項及ヒ第二百八十六條第一項)

(第六、枉斷ノ罪)一般ノ官吏及ヒ民事裁判官ニシテ賄賂罪ヲ犯シ因テ不正ノ處分ヲ爲シタルトキハ賄賂ノ罪ニ照シ各々一等ヲ加ヘ(第二百八十四條第二項及ヒ第二百八十五條第二項)裁判官檢事警察官賄賂ニ依リ又ハ私情私怨ノ爲メ被告人ヲ典庇シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附ス其之ヲ陷害シタルモノハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條及ヒ第二百二十二條ノ例ニ照シテ處斷ス

(第七、拷問ノ罪)苟モ法律ニ於テ拷問ヲ禁止スル以上ハ拷問ノ罪モ亦官權濫用ノ罪ノ一種ニ過キサレトモ我刑法ハ特ニ條ヲ設ケテ之ヲ一種ノ重キ罪トセリ即チ裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ノ陳述ヲ强ユルノ方便トシテ被告人ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ淩虐ノ所爲アルモノハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一重ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス(第二百八十二條)

第四章　官吏財產ニ對スル罪

〔第一、監守盜〕官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處シ因テ官ノ文書簿冊ヲ增減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ自ラ監守スル所ノモノタルト否トヲ問ハス第〔二〕百五條ノ例ニ照シテ處斷ス而シテ其輕罪ノ刑ニ處スルニ至ルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス(第二百八十九條及ヒ第二百九十一條)

〔第二、正數外ノ金穀ヲ徵收スルノ罪〕租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタルモノハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其監視ハ前項ニ同シ(第二百九十條)但シ法文ニハ「正數外」ト特書スルモ法律ニ於テ徵收スルコトヲ許サヽル金額ハ勿論上納期限ノ未タ至ラサル金錢財物ヲ徵收スルモ亦同シカルヘシ

第三篇　社會ニ對スル罪

第一款　社會ノ靜謐ヲ害スル罪

第一章　兇徒聚衆ノ罪

兇徒聚衆ノ罪ハ二種アリ第一ハ多數集合ノ罪即チ兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ說諭ヲ受ルモ仍解散セサルノ所爲ニシテ第二ハ多數暴動ヲ爲スノ罪即チ兇徒多衆ヲ嘯聚シ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強迫シ又ハ村市ヲ騷擾スル等ノ所爲(第百三十六條及ヒ第百三十七條)トス然レトモ第一ノ罪ハ自ラ第二ノ罪ニ包含スルヲ以テ予ハ之ヲ分論スルノ勞ヲ取ラス單ニ第二ノ罪ニ就キ論述セントスルナリ但シ法文ニ拘泥スルトキハ兇徒ト云ヒ嘯聚ト云ヒ官廳

ニ喧聞スト云ヒ何レモ記事体ノ好文字ニシテ僻村ノ農民竹槍席旗ヲ携ヘテ戸長役場ニ喧々タル形容ノ情況眞ニ其聲ヲ聞キ其實ヲ見ルノ妙趣ナキニアラスト雖苟モ小說的ノ定義ヲ以テ法律的ノ定義トスルコトヲ得サル限リハ予ハ單ニ此罪ヲ以テ多數相聚合シ其共同力ヲ以テ公安ヲ妨害スヘキ暴行ヲ爲スノ所爲トナシ其未タ暴行ヲ實行スルニ至ラサルモ暴行ヲ爲スコトヲ謀議シ官吏ノ命令ニ背キ其集合ヲ解散セサル所爲ヲ以テ多數聚合ノ罪トナシ以下之ヲ分析解說セム

〔主體〕此罪ノ主體タルヘキモノハ必ス多數ノ人衆タラサルヘカラス英國法ニ於テハ三人以上ヲ以テ此罪ヲ構成スヘキ多數ト一定スレトモ人數ニ確定ノ制限ヲ設クルハ決シテ其當ヲ得タルモノニアラス特ニ此罪ノ如キニ在ツテハ各事件ニ付キ時處等ノ情況ニ從ヒ普通ノ意義ニ於テ多數ト認ムヘキ人數ヲ定ムルヲ以テ適當トス

〔物體〕此犯罪ハ公安ヲ妨害スルモノニシテ一家ノ安寧ヲ妨害スルモノハ家宅侵入罪等ヲ爲スヘク國家ノ憲法ヲ破ルニ至ルヘキモノハ國事犯タル內亂ノ罪ヲ構成スヘシ設例ヘハ暴動ヲ起シテ一個ノ官署ニ對シ其行政處分ヲ廢停シ又ハ其長官ヲ黜陟スルモ毫モ朝憲ヲ紊亂スルモノニアラスト雖若シ此暴動ニシテ朝憲ヲ紊亂スヘキ內亂タル所爲ノ一部若クハ端緒タリシトキハ之ヲ內亂ノ罪トセサルヲ

スチーブン氏著英國刑法第五〇葉

メイ氏著英國刑法第二一四葉

オツペンホツフ氏著獨逸刑法第三〇二葉

ラツセル氏著重輕罪論第三七九頁

得サルカ如シ○國家ハ一個人タル資格アルモ社會ハ一個人タル資格ナキヲ以テ此罪ニ就キ直接ニ其害ヲ蒙ルヘキモノハ各人各個ノ權利ニシテ其生命身體自由財産等ニ外ナラスト雖本來此罪タル公安ヲ妨害スヘキ暴行タルヲ以テ此等ノ物體ニ對スル損害ハ一般ノ公安ヲ破ル (terrorem populi) ニ足ルヘキモノタラサルヘカラス故ニ角力其他ノ遊戯ヲ爲ス所ノ多數ノ聚合ハ此罪ヲ構成セス又タ他人ノ所有セル木石等ヲ自己ノ所有ナリトシテ多人數ヲ集メテ之ヲ運搬スルカ如キハ現ニ權利ナキコトヲ行フ多數ノ集合ナルモ公安ヲ害シ公衆ヲ恐怖セシムルコトナキヲ以テ其ノ罪ナシ

〔所爲〕暴行ハ之ヲ加フル所ノ物體ニ依リ公ケノ性質ヲ帶フルモノト私シノ性質ヲ備フル者トノ區別アリ官廳ヲ破壞シ官吏ヲ强迫スルカ如キハ公ケノ性質アルベク私人ノ財産ヲ奪ヒ又ハ工業場ヲ破壞セントスルモノヽ如キハ私シノ鬪爭タルニ止マルベシト雖此犯罪ヲ構成スルニハ毫モ其性質ノ公私如何ヲ論セサルナリ但シ論者往々公ケノ性質ニ屬スル暴行ノ例トシテ官廳ヲ顚覆シ若クハ其組織ヲ變更スル等ノ所爲ヲ引證スレトモ予ハ毫モ其意ヲ解スルコトヲ得ス官廳ヲ顚覆スルトハ其家屋建築ヲ破毀スルノ意カ敢テ之ヲ稱スルニ顚覆ノ二字ヲ以テシ故ラニ法律ヲシテ小說的タラシムルノ必要ナカルヘシ將タ無形的ニ之

ラッセル氏著重輕罪論第三八〇葉

ヲ解シ官廳ヲ廢止スルノ意トセンカ如何ナル暴力強制ヲ以テスルノ犯者アルモ主權者ノ外決シテ之ヲ廢滅セシムルコトヲ得ス故ニ一種ノ論者ハ更ニ此等ノ所爲ヲ以テ國事犯タルノ性質ヲ有スルモノトスレトモ凡ソ主權者ニアラサレハ實行スルコト能ハサル事項ヲ行ハントスル欲セハ先ツ自ラ主權自身ヲ奪ハサルヘカラス予ハ未タ自ラ主權ヲ奪ハスシテ主權者ニアラサレハ舉行スルコト能ハサル事項ヲ行ハントスルノ國事犯者アルコトヲ聞カサルナリ

〔犯意〕此罪ヲ構成スルニハ暴行ノ故意アルヲ以テ充分トスルカ故ニ毫モ目的ノ如何ニ關係スル所ナシ故ニ其目的ハ決シテ法律ノ禁スル所ニアラサルモ仍ホ此罪ヲ免ルヽコトヲ得ス設例ヘハ他人ノ現ニ使用セル工業場ハ犯人ノ所有ニシテ之ヲ破毀スルノ權アルモ多數合同シテ之ニ暴行ヲ加ヘタル場合ノ如シ

ラッセル氏著重輕罪論第三八一葉

〔手段〕此罪ハ集合シタル多數ノ共同力ノ手段ニ出テタル暴行タルコトヲ要ス故ニ如何ニ多數人衆ノ集合スルモ各人個々獨立シテ爲シタル暴行ハ此罪ヲ犯スニ必要ナル手段ナシ設例ヘハ市祭禮其他適法ナル群衆中ニ於テ急ニ鬪爭ヲ生シ多數ノ群衆爲メニ驚駭シテ鬪爭ノ場處ニ臨ムモ此罪ヲ構成スルコトナキカ如シラッセル氏ハ此罪ニ就キ多少ノ豫謀アルコトヲ必要トシ此場合ヲ以テ豫謀ナキノ一例トスレトモ之ヲ共同力ノ手段ナキモノトスルヲ適當トス

(刑罰)多數聚合ノ罪ニ就テハ首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ附加隨行シタルモノハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處シ多數暴動ヲ爲スノ罪ニ就テハ首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ其情輕キ者ハ一等ヲ減シ附加隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス○又タ暴動ノ際人ヲ殺死シ若シハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放チタル者幷ニ情ヲ知テ之ヲ制セサル首魁及ヒ教唆者ヲ死刑ニ處ス(第百三十六條乃至第百三十八條)

第二章　人ノ住所ヲ侵ス罪

家宅侵入ノ罪ハ權利ナクシテ人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ侵入シ若クハ之ニ存留スルノ所爲ナリ(第百七十一條)

(主體及ヒ物體)法律ハ保護スル所ハ家宅ノ所有權ニアラスシテ一家ノ安寧ナリ故ニ此犯罪ノ物體ハ所謂家宅權即チ自己ノ住居スル場所ニ於テハ自己ノ意思ヲシテ獨リ其効力ヲ有セシムルノ權ナリトス故ニ法律上此權ヲ有スルモノハ所有主ノ如何ヲ問ハサルヲ以テ家主若クハ地主ト雖モ其貸與ヘタル借家人若クハ借地人ニ對シテ此罪ヲ犯スコトヲ得ヘシ印度刑法及英國學者カ之ヲ以テ往々財產ニ對スルノ罪トスルハ誤レリ我現行刑法ニ於テ此犯罪ノ物體タルヘキ者ヲ以テ單ニ人ノ住居シタル邸宅及ヒ人ノ看

マイエル氏刑法論第四七九頁

千八百七十二年五月十一日及千八百七十三年一月三十日獨逸帝國上等裁判所判決

メイン氏著印度刑法第四百四十一條註解

山田評 待合遊廓等ハ來客ニ家宅權ヲ附與シタルモノニアラサルベシ

山田評 必スシモ警察上ノ規則ニ限ラス凡テ此等ノ場合ハ法律ニ於テ其權利ヲ認メタルモノトスルヲ可ナリトス

守スル建造物ニ限リタルハ頗ル其當ヲ得タリト雖邸宅ノ文字ハ稍々廣キニ失シテ其ノ本旨ヲ見ルニ易カラス何トナレハ旅人宿、下宿屋、待合宿、遊廓等一箇ノ建設物中ニ數多ノ獨立ナル場所アルコトヲ認メサルヘカラサル場合ニ於テハ其全體ノ邸宅ニ出入スルノ權アル者即チ下宿人來客ニシテ他ノ下宿人若クハ來客ノ現在スル室内ニ侵入シタルモノト雖尚ホ之ヲ此罪アルモノトセサルヲ得サレハナリ但シ宿屋其他ノ主人ハ警察規則上ニ於テ往々來客ノ室内ニ侵入スルノ權利ヲ與ヘタルモノナキニアラス

〔所爲〕侵入ノ所爲ハ權利ナクシテ之ヲ行ヒタルモノナラサルヘカラス法文ニ「故ナク」云々ト明言セルハ即チ此意ニシテ始メヨリ權利ナキ場合及ヒ侵入シタル後ニ至リテ其權利ノ消滅シタル場合ヲ包含ス設例ヘハ家宅ノ主人若クハ看守者ノ承諾ヲ得テ其家宅内ニ入リタルモノト雖其承諾ヲ取消シ更ニ退出スヘキコトヲ告クルモ尚ホ其内ニ止マルモノハ即チ權利ナクシテ宅内ニ入リタルモノタルヲ免レス然レトモ承諾ニ依リ斯ク此權利ヲ棄却スルコトヲ得ヘキ者ハ何人ニ限ルヤ否ニ就テハ學者ノ間多少ノ議論ヲ來シタリシト雖一般ヨリ之ヲ云フトキハ家宅ニ住居スル主人ハ勿論其不在中ニ於テハ其婦其子又ハ留守居ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク數人同一ノ權利ヲ以テ同一家ニ住居スル場合ニ於テハ數主人中何人ト雖此權利ヲ棄ツルコ

千八百七十八年七月九日獨逸帝國上等裁判所判決

千八百七十九年十二月十日同上判決

トヲ得ベシ但シ權利ナクシテ一タヒ家宅ニ侵入シタル以上ハ此犯罪ハ已ニ成立シ了リタルモノナルヲ以テ後ニ至リテハ追認ノ承諾ヲ與フルモ其効ナシ○斯ク此權利ハ一方ニ於テハ承諾ヲ以テ之ヲ棄却シ一方ニ於テハ之ヲ受クルコトヲ得ル以上ハ其棄權ノ明諾ニ出ツルト默諾ニ出ツルトヲ問ハサルノミナラス習慣ニ依リ之ヲ默諾ニ附シタル場合甚タ數多ナルヘシ商家ノ來客又ハ友人ノ來訪者ニ對スル場合ノ如キ皆ナ默諾ニ依テ此權利ヲ棄テタルモノト推測スベク又タ一般ノ面識ナキ人ニ對スルモ門戸ヨリ玄關ニ至ル通路ノ如キハ特ニ張札等ヲ用ヒ反對ノ意思ヲ表示スル場合ノ外同一ノ推測ヲ下スコトヲ得ヘシ由是觀

奥田評事理明晰畧來ノ批難スヘキ餘地ヲ存セス

之法文ノ所謂「故ナク」ノ語ハ法律上當然ノ權利若リハ承諾ニ依リ得タル權利ナキノ意タルコト明了ナリ夫ノ之ヲ以テ家宅ニ入ルヘキ理由若クハ辨解ナキコトヲ指示スルモノトスルカ如キハ小說的ノ解釋論タルヲ免レス

「侵入罪ノ種類及ヒ刑罰」現行法ニ於テハ第一夜間ト晝間トニ由リ侵入罪ヲ區別シ一ハ十一日以上六月以下一ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノトスレトモ夜間ト云ヒ又ハ晝間ト云ヒ特別法又ハ斷例ニ依リ其時間ヲ明定シタルモノナキカ故ニ英國法ニテハ午後九時ヨリ翌午前十時迄ヲ以テ夜間トス自然ノ暦ニ從フノ外敢テ他ニ其方法ナシ第二皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ係ルトキハ各一等ヲ加ヘ第三門戸牆壁

スチーブン氏著英國刑法第二五八葉

ビクトリヤ女王第二十四年及ヒ第二十五年ノ法律第九十六第一節

ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ入リタル時、兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帶シテ入リタル時、暴行ヲ爲シテ入リタル時及ヒ二人以上ニテ入リタル時ハ更ニ一等ヲ加フヘキモノトセリ而シテ踰越損壞、兇器、暴行等ノ何物タルハ後篇ニ於テ詳述スル所アルヘキヲ以テ今茲ニ畧スヘシト雖法文ヲ一見スルトキハ此四箇ノ條件ハ一箇毎ニ一等ヲ加フルモノナルヤ否ヲ疑ハシムルモノアルニ似タリ然レトモ汎論ニ於テ已ニ論述シタルカ如ク特別ノ加重ハ本刑ヲ加重スルノミニアラスシテ特別ナル一種ノ犯罪ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ此等二箇若シハ三箇ノ條件同時ニ存在スルトキハ之ヲ二箇若シハ三箇ノ罪ト見做シ宜シク之ヲ數罪俱發ノ例ニ照スヘシ決シテ一箇毎ニ一等ヲ加フヘキモノニアラサルナリ(第百七十一條)

倉富評刑法第百七十一條第一項乃至第四項ノ場合ニ於テハ侵入ノ方法ニ異ニスルノミニシテ侵入ノ點ニ至リテハ各項ニ同一ナリテ故ニ箇以上ノ條件ニ二個以上ノ時雖モ二箇ノ條件ニ云フヲ得スシテ二箇以上ノ條件アルカ爲メ之ヲ數罪トスルトキハ一箇ノ侵入ニシテ數箇ノ罪ヲ成シ二箇三箇ノ條件アルトキハ二箇三箇ノ罪ヲ成シ一箇ノ侵入ニシテ數箇ノ罪ヲ成スノ趣旨ト解スルヲ以テ適當トスヘシ

部合アルヲ免レス故ニ該條ハ一箇ノ條件ニアラスシテ數箇ノ條件ニアルトキハ二箇三箇ノ條件合シテ一罪ヲ成スヲ以テ適當トスヘシ

第三章　私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造所有スル罪

官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シ又ハ私ニ之ヲ販賣若シハ所有スルモノハ第百五十七條及ヒ第百六十條ノ區別ニ從ヒ之ヲ罰シ單ニ製造ノ用ニ供スヘキ器械ハ第百六十一條ニ依リ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收シ其製造物品ヲ所有スルモノハ總則第四十條ニ依リ之ヲ沒收スレトモ此場合ニ於テハ單ニ所有主即チ犯人ヨリ沒收スルモノニ過キサルヘシ又タ法律ハ製造販賣ノ罪ニ關シ職工雇人ニシテ

止タ正犯ノ使令ニ供シタル者ニ就テハ各本刑ニ照シ二等ヲ減スルノ特別共犯例ヲ設ケ且ツ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ヲ適用スヘキコトヲ定メタリ(第百五十八條及ヒ第百五十九條)

第二款　社會ノ危難ヲ釀成スルノ罪

第一章　放火失火ノ罪

古代ノ學者ハ放火失火ノ罪ヲ以テ財産ニ對スル犯罪ノ一種ト爲シタリシカ近世ニ於テハ之ヲ公衆ノ危難ニ關スル罪トセリ故ニ其ノ燒燬シタル家屋ハ自己ノ所有タルト他人ノ所有タルトヲ問ハス且ツ過失ニ出ツルモノト雖仍ホ失火トシテ其罪ヲ論スルモノトセリ但シ我刑法ハ舊主義ニ從ヒ之ヲ財産ニ對スル犯罪中ニ列敘シタリト雖其性質ヲ以テ財産上ノ罪トナシ第八十六條及ヒ第八十七條ニ記シタル自首輕減ノ例ヲ用ルノ意ニアラサルヘシ

燒燬罪ハ火力ヲ用ヒ家屋其他ノ財産ヲ毀壞スルノ罪トス今マ之ヲ分析論述スルコト左ノ如シ

(主體)此犯罪ニ就テハ何人ト雖其主體タルコトヲ得故ニ家屋其他此犯罪ノ物體タル財産ノ所有主ト雖之ヲ燒燬シタルモノハ仍ホ法律ニ照シテ之ヲ處斷スルコトヲ得ルナリ

(手段)犯罪ノ手段ハ即チ自然力ナル火勢ニシテ敢テ他ニ特別ノ手段アルヲ要セス但シ第四百十條ノ場合ニ於テハ火藥其他激發スヘキ物品又ハ煤氣井蒸汽罐ノ破裂ヲ以テ犯

ビシヨップ氏著英國刑法第一卷第五七七節

ベルヲル氏著刑法原論第六〇〇葉

罪ノ手段タラシムルコトヲ要スルモ是レ放火又ハ失火ノ罪ニアラス單ニ人ノ家屋財産ヲ毀壞スルノ罪ニ過キス只タ其刑罰ヲ以テ放火失火ノ例ニ準スルノミ

(犯意)失火ノ場合ヲ除シノ外總テ故意アルヲ要スルモ又タ特ニ惡意アルヲ要セスト雖犯罪ヲ構成スヘキ事實ヲ知ラサルトキハ第七十七條第二項及ヒ第三項ノ區別ニ從ヒ不論罪ノ源因タルヘキハ勿論ナリ然レトモ法文ニ從フトキハ火ヲ放ラ家屋其他ノ財産ヲ燒燬シタル者云々ト明言スルカ故ニ往々火ヲ放ツノ故意ヲ以テ充分ナリトスルカ又タ之ヲ燒燬スルノ故意ヲ要スルヤ否ニ付キ多少ノ疑惑ヲ生スルモノナキニアラスト雖所謂故意ナルモノハ所爲ノ結果ヲ了知スルノ意ニ過キス敢テ其結果ヲ欲スルノ意アルヲ要セサルヲ以テ苟モ故意ヲ以テ火ヲ放チ其結果トシテ之ヲ燒燬スヘキコトヲ知ルトキハ即チ燒燬ノ故意アルヘシ燒燬スヘキコトヲ知ラサルトキハ即チ罪トナルヘキ事實ヲ知ラサルモノト謂フヘシ設例ヘハ茲ニ廢屋ニ放火シ只タ其廢屋ノミヲ燒燬スルヲ欲スルモ其結果トシテ之ニ接近セル住家ヲ併セテ燒燬スヘキコトヲ知リツヽ放火シタルトキハ之ヲ住家ヲ燒燬シタルモノトセサルヲ得ス而シテ若シ其結果ニシテ單ニ廢屋ノミノ燒燬ニ止マリタルトキハ廢屋ヲ燒燬シタル己遂罪ト住家ヲ燒燬スル未遂罪トノ想像上ノ數罪俱發タルヘシ○前同一ノ理由ニ依リ

奥田評 苟モ故意ノ何物タルコトヲ知ラハ著者カ此等ノ議論タル敢テ新奇ナルニアラス ト雖學者往々放火モ亦殺人罪ノ手段タルコトヲ以テ考察セサルヲ以テ遂ニ誤謬ノ說ヲ脫スルコト能ハサルモノナキニアラス

ホッペンホッフ氏著獨逸刑法第七四七葉

メイン氏著印度刑法註解第二百九十九條中引例

人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル場合ト雖犯人ニシテ或ハ其住人ノ死亡ヲ來スヘキコトアランコトヲ知リタルトキハ常ニ放火罪ト殺人罪トノ數罪俱發ナルヘシ故ニ人ノ住居セサル家屋劇場石炭坑廢屋又ハ山野ニ露積シタル柴草等ノ中ニ現ニ人ノ存在スルコトヲ知リツヽ之ニ放火シテ其人ヲ燒死セシメタルトキハ其人ノ燒死ヲ欲スルノ意ナキモ仍ホ之ヲ重キ謀殺若クハ故殺ノ罪ニ問ハサルヲ得ス但シ人ノ現在スルコトヲ知ルモ放火ノ爲メ之ヲ燒死セシムルニ至ラサルヘシト確信シタル場合ト雖通常人ノ思慮ニ從ヒ一ノ所爲ヨリ通常發生スヘキ結果ニ對シテハ決シテ法律上ノ責任ヲ免ルヽコトヲ得サルヘシ

フォースタンエリー氏著佛國刑法第

スチーブン氏著英國刑法第三三二葉

倉富評
自然ノ勢ニ一任スルトキハ家屋全燒セシムヘキ地位ニ至ルモ自然ノ勢ニ一任セス門戸ヲ燒燬スルニ止マリタルトキハ家屋燒燬ノ已遂犯ト爲スコトヲ得サル可シ著者シ門戸ヲ以テ家屋ト爲スノ趣旨ナラハ後例ノ場合ト雖モ亦已遂犯ト爲サヽル可カラス

(一)所爲燒燬トハ火勢ノ如何ナル程度ニ達シタルコトヲ要スヘキヤ英佛法ニ於テハ單ニ火ヲ放チ火力ニ依リ其物體ノ化學的作用ヲ起シタルトキヲ以テ既遂トスレトモ我刑法ハ獨逸法ト同シク燒燬ノ結果ヲ生スルコトヲ必要トセリ學者往々火焰ヲ見ルニ至ルヲ以テ燒燬ノ程度トスルモノアリト雖予ハ只タ犯罪タル物體ヲシテ火力ノ化學的作用ニ依リ自然ノ結果トシテ其全部ヲ滅盡セシムルニ足ルヘキ地位ニ至ラシメタル場合ヲ以テ放火罪ノ既遂ナリトセム設例ヘハ同シク門戸ニ放火シ門戸ヲシテ燒失セシムルモ其門戸ニシテ本家ニ密著シ之ヲ自然ノ勢ニ一任スルトキハ該家ヲシテ全燒セシムヘキ結果ヲ生スルノ地位ニ至

ラシメタルトキハ之ヲ已遂犯トスヘシト雖若シ其門戸ニシテ本家ト多少ノ距離ヲ爲シ又ハ本家ノ石造ニシテ火勢ヲ防クニ足ルヘキモノナルトキハ未タ全家ヲシテ全燒セシムヘキ地位ニ至ラシメタルモノニアラサルヲ以テ未遂犯トシテ之ヲ處分セサルヲ得サルカ如シ

(物體及ヒ刑罰)放火ノ罪ハ其犯罪ノ目的タル物體ノ種類ニ依リ其刑ヲ異ニシ從ツテ其犯罪ノ種類性質ヲ異ニスルコト左ノ如シ

一、人ノ住居シタル家屋及ヒ人ヲ乘載シタル船舶汽車ニ係ルトキハ死刑ニ處ス(第四百二條及第四百五條第一項)而シテ其家屋ニ係ル場合ハ法文ニ於テ特ニ人ノ住居シタル云々ト明言シタルヲ以テ第一人ノ住居ニ供スルモ現ニ人ノ存在セサル家屋第二現ニ人ノ現存スルモ住居ニ供セサル家屋第三家屋ニアラサル他ノ建造物ヲ包含スルコトナシ

二、人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ニ係ルトキハ無期徒刑ニ處ス(第四百三條)

三、廐屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舍及ヒ人ヲ乘載セサル船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス(第四百四條及ヒ第四百五條第二項)

四、山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス(第四百六條)

五、自己ノ家屋ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス(第四百七條)但シ自己ノ家屋ト雖他人又ハ家人ノ住居スルモノニ係ルトキハ第四百二條ノ犯罪ニシテ人ノ住居セサルモノト雖現ニ人ノ存在スルコトヲ知リツヽ燒燬シタルトキハ其結果ニ依リ謀殺故殺ノ已遂犯未遂犯タルヘシ又タ自己ノ家屋ノ外其他自己ノ建造物廢屋船舶柴草等ニ係ルトキハ全ク放火ノ罪ナシト雖依テ他人ノ家屋其他ノ物ヲ燒燬スヘキコトヲ知ラサリシ場合ニ限ルヘシ

六、過失ニ依リ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(第四百九條)但シ本條ノ所謂財産トハ放火ノ條ニ記載シタル財産ニ止マリ其他ノ一般ノ財産ヲ指示スルモノニアラス○失火罪ノ外凡テ有意ノ放火罪ハ輕罪ノ刑ニ處スル場合ト雖六月以上二年以下ノ監視ニ附ス(第四百九條)

第二章　決水ノ罪

決水ノ罪ハ水力ヲ用ヒ家屋其他ノ財産ヲ損害スルノ所爲トス

(犯意)ハ放火罪ノ場合ト全ク其趣ヲ同フシ過失ニ係ルトキハ失火ノ例ニ照シテ處斷シ(第四百十四條)其他ノ場合ニ於テハ故意アルヲ以テ足レリトス故ニ家屋ヲ漂失シ田園ヲ荒廢スル等財産ヲ損害スルヲ欲セサルモ此等ノ危害ヲ發

ナツヘンホツフ氏著獨逸刑法第七五七頁

生スヘキコトヲ知リツヽ堤防ヲ決潰シテ水勢ヲ擅ニセシメタルトキハ仍ホ充分ナル故意ノ存在スルモノニシテ其結果ニ依リ之ヲ家屋ヲ漂失シ田園ヲ荒廢スル罪ノ已遂又ハ未遂ヲ以テ論セサルヲ得ス其人ノ住居セサル家屋又ハ礦坑等ト雖人ノ現在スルコトヲ知リツヽ之ヲ漂失セシメタル場合ニ於テハ謀殺若クハ故殺ヲ以テ論スル點ニ於テモ亦放火罪ノ例ニ同シ

〔手段〕決水罪ノ手段ハ自然力ナル水勢ヲ使用スルニ外ナラスト雖我刑法ハ特ニ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルノ手段アルコトヲ必要トスルカ故ニ水閘ヲ毀壞セス已ニ開キタル水閘ヲ閉チ水量ヲ增加シテ水閘ノ内部ニ存スル家屋ヲ漂失シ又ハ園田ヲ荒廢シタル所爲ヲ罰スルコトヲ得サルノミナラス人ノ住居シ又ハ現在スルコトヲ知ラス單ニ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞スル所爲即チ手段タル所爲ヨリ家屋ノ漂失田園ノ荒廢等ノ結果ヲ發生シタルトキハ第四百十三條ノ目的ニ出テタル場合ノ外毫モ之ヲ處斷スルノ方法ナシ

〔所爲〕漂失及ヒ荒廢ノ所爲ハ放火罪ノ燒燬ト等シク犯罪ノ物體ヲシテ水力ニ一任シ或ハ之ヲ流失シ若クハ損壞セシムルヲ云フ但シ第四百十三條ノ罪ハ單ニ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害スル所爲ニ過キサレトモ此場合ニ於テハ他人ノ便宜ヲ損シ又ハ自己ノ便宜ヲ圖ル爲メ

ニスルモノタルコトヲ要ス

〔物體及ヒ刑罰〕モ亦略ホ放火罪ノ例ニ依ルコト左ノ如シ

一、人ノ住居シタル家屋ニ係ルトキハ無期徒刑ニ處ス（第四百十一條）

二、人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ニ係ルトキハ重懲役ニ處ス（第四百十一條第二項）

三、田園礦坑牧場等ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス（第四百十二條）

四、堤防ノ決潰其他ノ水利妨害ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス（第四百十三條）

第三章　船舶ヲ覆沒スル罪

船舶覆沒ノ罪ハ故意ヲ以テ衝突其他ノ所爲ニ依リ船舶ヲ覆沒スルノ所爲コシテ事頗ル單簡特ニ之ヲ分析詳論スルノ要ナキヲ以テ今ヤ注意スヘキ一二ノ要點ヲ指示セム

一、刑法ハ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆沒スルモノハ死刑ニ處シ船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處スト定メタレトモ（第四百十五條）人ヲ乘載シタルコトヲ知ラサルトキハ罪トナルヘキ事實ヲ知ラサルモノニ過キス若シ此事實ヲ知リツヽ覆沒シタルトキハ放火罪ノ例ニ於ケルカ如ク此罪ト謀殺若クハ故殺ノ罪トノ數罪俱發ニシテ其現ニ死亡者ナキモノハ此罪ト謀故殺罪未遂トノ數罪俱發ナリト雖法文ハ特

富評法文ニ船中死亡ナキトキハ無期徒刑ニ處スト雖モ其死刑ニ處スルハ船中死亡ヲ以テ船舶ヲ覆沒シタルトキハ重懲役ニ處スルコトヲ特ニ明カニシタルモノニ因リ殺人ノ目的ヲ以テ船舶ヲ覆沒シタルモノハ外謀故殺ノ罪アリトスルコトヲ得サル可シ

ニ死亡ナキトキハ無期徒刑ニ處スヘキモノト明言シタルヲ以テ之ヲ謀故殺ノ點ヨリ論下シ總則未遂犯ノ例ニ照シテ二等ヲ減スルコトヲ得サルナリ

二、人ヲ乘載セサル船舶ニ係ルトキハ前項ノ刑ヨリ二等ヲ減シ輕懲役ニ處ス(第四百十六條)

三、燈臺浮標等ヲ損壞シ故意又ハ過失ニ依リ船舶ヲ覆沒シタル者ハ第百六十九條ヲ適用スヘキモノナレトモ此等ノ場合モ亦社會ノ危險ニ關スル罪タルヲ以テ本章中ニ論述スルヲ適當トスレトモ我刑法ハ之ヲ往來通信ヲ妨害スル犯罪中ニ置キタルヲ以テ予モ亦便宜上特ニ茲ニ之ヲ論述セス

第四章　社會ノ健康ヲ害スル罪

社會ノ健康ヲ害スルノ罪凡ソ六種アリ何レモ單簡ノ犯罪ニシテ特ニ之ヲ分析詳說スルノ要アルヲ見サルヲ以テ左ニ只タ其大綱ヲ擧ケム

〔第一、阿片ニ關スル罪〕ハ阿片烟及ヒ阿片烟吸食ノ器具ヲ製造、輸入、販賣、所有、及ヒ受寄シ又ハ阿片烟ヲ吸食シ及ヒ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ謀ルノ所爲及ヒ稅關官吏情ヲ知ツテ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシムルノ所爲ヲ包含ス其刑ニ至リテハ無期徒刑ヨリ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ至ル(第二百三十七條乃至第二百四十二條)而シテ阿片烟及ヒ吸食ノ器具ハ法律ノ禁制物トシテ之ヲ沒收スレト

モ醫師其ノ藥用ノ爲メニスルモノハ此限ニアラサルヘシ

〔第二、飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪〕ハ人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコト能ハサラシムルニ至ラシメ又ハ人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシムルノ所爲ヲ指示シ凡テ其結果ニ對スル故意ノ有無ヲ問ハス且ツ故意ナクシテ爲メニ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタルモノト雖毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從ツテ處斷ス〔第二百四十三條乃至第二百四十五條〕

〔第三、傳染病豫防規則ニ關スル罪〕ハ傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シ入港ノ船舶ヨリ上陸シ若クハ物品ヲ陸揚シ又ハ流行地方ヨリ他處ニ出タル所爲ヲ包含ス〔第二百四十六條乃至第二百四十九條〕但シ此等ノ犯罪ハ傳染病流行ノ際ニ犯シ且ツ其際ニ發覺シタルモノニアラサレハ之ヲ罰スルコトヲ得サルハ已ニ汎論ニ於テ詳述セリ

刑法汎論第三篇第二章第二節第二七七頁

〔第四、危害品製造ノ罪〕ハ官許ヲ得スシテ危害ヲ生スヘキ物品若クハ健康ヲ害スヘキ物品ノ製造所ヲ創設シ又ハ官許ヲ得ルモ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背スル所爲ヲ包含ス因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタルトキハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從ツテ處斷ス〔第二百五十條乃至第二百五十二條〕

〔第五、健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪〕ハ有害ノ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シ又ハ規則ニ反シ毒藥劇

藥ヲ販賣スルノ所爲トス因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致ス者ハ罰前項ニ同シ(第二百五十三條乃至第二百五十五條)

(第六、私ニ醫業ヲ爲ス罪)トハ官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲スノ所爲ヲ云フ若シ治療ノ方法ヲ誤リテ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ過失殺傷ノ例ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス(第二百五十六條及ヒ第二百五十七條)但シ此犯罪ハ所謂慣習ニ依リ始メテ其罪ヲ構成スヘキモノニシテ一時ノ急ニ應シテ治療ヲ施シタルモノヽ如キハ之ヲ醫術ヲ業トスルモノト云フコトヲ得ス

第五章　往來通信ヲ妨害スル罪

往來通信ヲ妨害スル罪ハ道路舶船汽車等海陸往來ノ自由ヲ妨害シ又ハ郵便電信等交通ノ自由ヲ妨害スルノ所爲ヲ包含スレトモ我立法官ハ起案ノ際多少ノ紛乱ヲ釀成シタリト覺シク之ヲ他ノ犯罪ニ比スレハ頗ル奇異ノ痕跡アルヲ見ル今マ左ニ一二ノ要點ヲ指示セム

第一、法律ハ或ハ精密ナランコトヲ欲シテ乎必要アラサルノ場合ニ於テモ亦特ニ犯罪ノ手段タルヘキモノヲ明示シタルカ故ニ却ツテ往々法律ノ欠點アルヲ免レサルニ至レリ即チ第百六十二條ニ道路橋梁等ヲ損壞シテ往來ヲ妨害スルノ罪ヲ定メタルカ故ニ損壞ノ手段ヲ用ヒス巨大ノ木石若クハ砂石ヲ以テ道路ヲ塞ノ往來ヲ妨害シタルモノヲ罰スルコトヲ得ス第百六十四條ハ電信ノ柱木器械等ヲ損

壞シテ電氣ヲ不通ニ致シタルノ罪ヲ定メタルカ故ニ之ヲ損壞セスシテ金屬其他誘導性アル物質ヲ以テ電氣ヲ他ノ方向ニ導クノ場合ヲ罰スルコトヲ得ス又タ第百六十五條ノ場合ハ詐僞ノ標識ヲ指示シタル場合ヲ包含セシムルニ足ラサルヘシ

第二、立法官ハ斯ク犯罪ノ手段ヲ特定シ置キ而シテ其手段タル所爲ニシテ故意アル以上ハ交通妨害ノ結果ニ對シテハ故意ノ有無ヲ問ハス之ヲ罰セント企テタルヲ以テ法律ノ保護スヘキ主眼タル結果ノ所爲ヲ罰スルニハ故意ト過失トニ出ツルモノトヲ區別セス共ニ之ヲ同一ノ刑ニ處セサルベカラサルノ不權衡ヲ發生セリ即チ第百六十二條ハ道路橋梁等ヲ損壞スルノ所爲ニシテ故意アラハ往來ヲ妨害スルノ故意アルト否トヲ問スシテ只タ其結果ノ生シタル時ニ於テ始メテ此罪ヲ構成シ第百六十四條モ亦電氣ヲ不通ニ致スノ結果ニ就テハ故意ノ有無ヲ問ハス更ニ進ンテ第百六十九條ニ至リテハ故意ナキモ尙ホ無期刑若クハ死刑ノ重刑ヲ以テ處斷スヘキ重罪ト定メタリ

第三、立法官ハ斯ク往來妨害ノ結果ニ就テハ故意ノ有無ヲ問ハサルモノト定メ乍ラ第百七十條ニ於テハ此罪ハ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル場合ト雖仍ホ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷スヘキコトヲ定メタレトモ故意ナキ犯罪即チ過失罪ニ未遂犯ナキハ三歲ノ童子ト雖已ニ經驗スル所

倉富評議官ノ問ヒニ曰ク何ヲ以テ往來ヲ妨害スルノ故意アルト否トヲ問ハストヲフヤ

倉富評
刑法第百六十四條ハ其第二項即チ電信ヲ妨害シタルトキ
單ニ故意アル場合ニ限ラサルヲ得ス設例ヘハ往來ヲ妨害スル
ノ意ヲ以テ道路ヲ損壞シテ現ニ往來ヲ妨害シタルトキ
ハ其未遂犯ヲ問フコトヲ得ヘキモ道路ヲ損壞シタルカ爲
メ豫メ期セサル所ノ往來妨害ノ結果ヲ生シタルトキハ罰
スヘキ未遂犯ナカルヘシ第百六十四條及ヒ第百六十九條
ノ場合ニ於テモ亦同一理ニ歸スヘシト雖第百六十四條第
二項ハ故意ナキ場合ニ就テハ結果ノ不通ニ至ラサルモノ
ヲ罰シ故意アル場合ニ就テハ未遂犯ノ特例ヲ設ケタルモ
ノト解釋セサルヲ得ス

上來論述シタル所ハ往來通信ヲ妨害スル罪ニ關スル現行

法ノ性質ニシテ他ノ文明諸邦ニ於テ其比ヲ見サル所ノ一
大奇觀ナリ然レトモ此等異常ノ要點ニシテ已ニ明カナル
トキハ此罪ニ就テハ特ニ詳述ヲ要スルモノナキヲ以テ左
ニ現行法律ノ規定ヲ示サム

一、道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シ又ハ僞計
威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ阻止シタル者ハ二月
以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス(第百六十二條及ヒ第百六十三條)往來ヲ
妨害シ因テ人ヲ殺傷シタルトキハ毆打創傷ノ例ニ照
シ重キニ從フ(第百六十八條)

二、電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シ電氣ヲ不

通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其電信ヲ妨害スルモ不通ニ至ラサルモノハ一等ヲ減ス(第百六十四條)

三、往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障碍ヲ爲シ又ハ航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ若シハ詐僞ノ標識ヲ點示シタルモノハ重懲役ニ處ス(第百六十五條及ヒ第百六十六條)仍テ汽車ヲ顚覆シ又ハ船舶ヲ覆沒シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處ス(第百六十九條)

四、第百六十二條乃至第百六十六條ノ罪其事務ニ關スル人自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ一等ヲ加フ(第百六十七條)

第三款　商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

(手段)農工商ノ業ヲ妨害スルノ罪ニ就キ其手段タルモノハ僞計又ハ威力ノ二者トス但シ物品ノ價ヲ昂低スルノ罪(第二百七十二條)ニ就テハ虛僞ノ風說ヲ流布スルヲ以テ其手段トス

(所爲)此犯罪タル所爲ハ農商工業ヲ妨害スル一切ノ所爲若シハ不爲ヲ指ス

(犯意)一般ニ故意アルヲ以テ充分ナリトスレトモ第二百七十條及ヒ第二百七十一條ノ場合ニ在テハ雇銀ヲ增減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムルノ意アルヲ要ス

(物體及ヒ刑罰)被害ノ物體ハ賣買ノ自由糶賣入札ノ自由及ヒ農工業ヲ營ムノ自由トス其區別ニ從ヒ刑ニ減重アルコト左ノ如シ

一、衆人ノ需用ニ欠クヘカラサル食料品ノ賣買ヲ妨害スル者及ヒ農工ノ雇人其雇賃ヲ增シ若クハ雇主ニシテ其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メニ妨害スル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附下ス但シ日用ニ欠クヘカラサル食用品以外ノモノニ係ルトキハ一等ヲ減ス(第二百六十七條第二百七十條及ヒ第二百七十一條)

二、農工ノ業又ハ糶賣若クハ入札ヲ妨害スルモノハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百六十八條及ヒ第二百六十九條)

三、虛僞ノ風說ヲ流布シ衆人需用品ノ價直ヲ昂低セシメタルモノハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス(第二百七十二條)

第四款　公務ヲ行フコトヲ拒ム罪

醫師化學家其他專修ノ職業アル者官署ヨリ其職業上知リ得ヘキ事實又ハ其他ノ者ト雖裁判所ヨリ證人トシテ其知リ得タル事實ヲ陳述スヘキコトヲ命セラレ故ナク之ヲ肯セサルノ所爲ヲ以テ公務ヲ行フコトヲ拒ムノ罪トス左ニ一二ノ注意スヘキ要點ヲ示ス

〔第一〕醫師化學家其他特ニ專修ノ職業アル者及ヒ何人ト雖裁判所ヨリ證人トシテ呼出サレ其證宣ヲ爲シタル者ニアラサレハ此犯罪ノ主體タルコトヲ得ス

〔第二〕陳述ヲ命セラレタル事實ハ其職業上知リ得ヘキモノタラサルベカラス化學家ニ創傷ノ鑑定ヲ命シ醫師ニ分析ヲ命スルカ如キハ其職業上知リ得ヘキコトニアラサルヘシ故ニ法庭ハ醫師ニ命スルニ或ル創傷ハ刀ヲ以テ爲シタルモノカ若クハ銃丸ヲ以テ爲シタルモノナルヤ否ヲ陳述スヘキコトヲ以テスルコトヲ得ルモ證據トシテ差押ヘタル被告人ノ刀若クハ銃丸ヲ以テ之ヲ創傷シタルモノナルヤ否ヲ以テスルコトヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ法官ハ宜シク醫師ノ陳述其他ノ證據ニ依リ自ラ之ヲ判定スヘキモノニシテ醫師ナシテ之ヲ爲サシメントスルハ醫師タル職業外ノ事項ニ屬ス可ケレハナリ

〔第三〕此犯罪ハ故ナク之ヲ肯セサルトキニ於テ始メテ成立スヘシ〔故ナク〕トハ職業上知リ得ヘカラサル事柄又ハ法律上陳述ヲ拒ムコトヲ得ヘキ場合ヲ云フ

〔第四〕刑法ハ陳述ヲ命シタル事實ノ種類ニ係リ其刑ヲ異ニセリ即チ解剖分析又ハ鑑定及ヒ證據ノ陳述ヲ肯セサルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ傳染病流行ノ際等ニ當リ病患ヲ檢査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ肯セサルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其獸類傳

染病ニ係ル場合ハ一等ヲ減ス(第百七十九條乃至第百八十一條)

(第五)我刑法ハ徴兵忌避ノ罪ヲ以テ此犯罪中ニ加ヘタレトモ其性質少シク異ナル所アルノミナラス已ニ徴兵令ヲ以テ之ヲ改正シタルヲ以テ茲ニ論述セス(第百七十八條)

第五款　公ケノ信用ヲ害スル罪

第一章　貨幣ヲ僞造スル罪

第一節　貨幣僞造變造ノ罪

貨幣ヲ僞造スル罪ハ往々之ヲ政府ノ造幣權ヲ害スルモノトナシ之ヲ國家ニ對スル犯罪中ニ列スルノ學者ナキニアラスト雖是レ全ク外形上ヨリ此犯罪ヲ觀察シタルモノニ過キス且ツ現ニ外國ノ貨幣ニシテ內國ニ其通用ヲ許シタルモノニ對スルモ尙ホ僞造ノ罪ヲ構成スルコトヲ得ベキモノタルヲ以テ實體上ヨリ之ヲ公ケノ信用(Publica fides.)ヲ害スル犯罪トスルヲ可ナリトス

現行法ニ於ケル貨幣僞造變造ノ罪ハ內國通用ノ貨幣ヲ僞造變造スルノ所爲ナリトス但シ僞造變造ノ貨幣ヲ輸入シタルモノモ亦之ニ準ス(第百八十九條)

(物體)貨幣ハ國家ノ准了シタル交換ノ手段ナリ交換ノ手段トシテ使用セサルモノハ金銀銅塊若クハ紙片タルニ過キサルヘク交換ノ手段トシテ使用スルモ國家ノ准了シタルモノニアラサレハ外國ノ貨幣若クハ其他ノ物品ニシテ之

會計法ニハ特ニ內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ掲ケタルヲ以テ內國通用ノ貨幣中ニハ外國ノ貨幣ヲ包含セス

ヲ貨幣ト云フコトヲ得ス故ニ舊貨幣ヲ僞造スルモ僞造ノ罪ナカルヘシ法文ニ內國通用ノ貨幣ト云ヘルハ即チ此意ニシテ法律上內國ニ於テ通用スル內國ノ貨幣及ヒ其通用ヲ准許シタル外國ノ貨幣內國ニ於テ通用ヲ許シタル紙幣ナク又タ之ヲ許スヘキモノニアラスヲ指示ス○貨幣ニ金屬ヨリ成ルモノト否ラサルモノトアリ金屬ヨリ成ルモノハ金銀銅ノ三貨幣ニシテ非金屬ヨリ成ルモノハ政府ノ發行シタル紙幣及ヒ免許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣トス但シ爲替劵其ノ他記名アル金劵ノ如キハ紙幣ニアラサルヲ以テ之ヲ僞造スルモノハ單ニ文書僞造ノ罪アルニ過キス

(所爲)此犯罪ノ所爲タルニハ僞造若クハ變造スルヲ以テ充分ナリトスレトモ或ル場合ニ於テハ仍ホ之ヲ行使スルコトヲ要ス

一、僞造ト變更ノ區別

トハ其間重要ナル區別アルコトニ注意シ決シテ之ヲ混同スルコトナキヲ要ス眞正トハ眞確ナル官署ノ証明シタル定形(フホルム)ヲ云ヒ價直トハ實價ト聲價(即チ名義上ノ價ニシテ貨幣ニ記載スル價)ト符合スルヲ云フ而シテ價直ノ減少即チ實價ト聲價ノ符合セサルノ一事ハ其眞正ヲ害スルコトナキヲ得ルモ價直ノ完全即チ實價ト聲價トノ符合スルノ一事ハ眞正ナラサル貨幣ヲシテ眞正ナラシメ又ハ通用授受ノ不安全ヲ消滅セシ

ムルニ足ラス何トナレハ貨幣通用授受ノ安全ハ全ク貨幣ノ眞正ナルト否トニ關スヘキモノナレハナリ

二、僞造トハ眞正ノ貨幣ノ摸擬即チ眞正ナラサル貨幣ヲ製造スルヲ云フ故ニ僞造シタル貨幣ノ物質ハ如何ナルモノタルヲ問ハス設ヒ眞正ノ貨幣ヨリ尙ホ一層純正ナル金銀ヲ用ユルモ之ヲ僞造トセサルヲ得ス何トナレハ貨幣ノ價直即チ實價ト聲價トノ符合ニ於テハ爲メニ毫モ其害ヲ蒙ルコトナキモ貨幣ノ眞確ナル官署ノ證明スヘキ定形ヲ案レハナリ又タ已ニ僞造シタル貨幣ヲ僞造スルモ其ノ摸擬セントスル所ノモノハ即チ眞正ノ貨幣タルヲ以テ僞造ノ罪ヲ構成スヘシ○

ビショップ氏著英國刑法第二卷第二九一節
マイエル氏著刑法論第六一六葉
ガルスハリセン氏著刑法註解第三節

摸擬トハ如何ナル點ニ達スルヲ要スルカ巧拙甚シク其度ヲ異ニスルヲ以テ豫メ萬般ノ場合ヲ決定スルコト能ハスト雖通常一般ニ通用シ得ラルヘキ程度ニ至ルヲ要ストスルハ今日學者ノ定論ナリ

三、變造トハ眞正ナル貨幣ノ價直ヲ害スル所爲ヲ云フ語ヲ換ヘテ之ヲ云ハヽ實價ト聲價トノ符合ヲ破ルモノナリ設例ヘハ金銀貨ノ緣ヲ削リ若クハ其ノ一部ヲ切取リタルトキハ實價ヲ減少シテ聲價ト符合スルコトヲ妨クヘク十圓金貨ノ文字ヲ改メ二十圓ト爲シタルトキハ聲價ヲ增加シテ實價ト符合スルコトヲ妨ケタルモノニシテ共ニ之ヲ變造ト云フ然レトモ紙幣ニ至リ

奥田評
著者ハ單純ナル理論ヲ以テ能ク偽造變造ノ區別ヲ明カニシタリ雖トモ紙幣ニシテ認ムルコトヲ許サヽルハ我國實際ノ所ナリ亦熟知スハ著者ハ何故ニ一言ノ注意ヲ與ヘサルヤ切ナル可カラスト云フ

テハ其ノ性質聲價アルモ實價ナキモノタルヲ以テ之ヲ偽造スルコトヲ得ヘキモ之ヲ變造スルヿヲ得ス二十錢ノ紙幣ヲ改メテ五十錢トスルモノハ五十錢ノ偽造ナリ又タ紙幣ハ其實價ナキヲ以テ其紙片ノ一分ヲ削リ取ルモ變造ニアラス故ニ紙幣ニ偽造アルモ變造ナカルヘシ但シ氏カ千圓紙幣ヲ改メテ一萬圓ト爲シタルトキハ其增加ノ部分即チ九千圓ノ偽造トセルハ予ノ服スル能ハサルノ說ニシテ予ハ原体ハ千圓ハ單ニ一萬圓ヲ偽造スルノ資本ニ過キスト見做スヘシ

四、銅貨ニ金銀ヲ鍍シ銀貨ニ金ヲ鍍スルハ變造ヲ以テ論

ベルヲル氏著刑法原論第四一一葉
千八百七十二年九月十九日獨逸帝國上等裁判所判決

スル〳〵學者及ヒ實際ノ斷例アルニ關セス予ハベルヲル氏カ斷然此所爲ヲ以テ偽造若クハ變造ニアラズトセルノ說ヲ贊成セサルヲ得ス何トナレハ此等ノ所爲タル毫末モ貨幣ノ眞正ヲ害セス又其價値ヲ損セス銅貨ニ銀ヲ鍍スルモ純然タル銅貨ナリ銀貨ニ金ヲ鍍スルモ純然タル銀貨ナリ此等ノ手段ニ依リ物品ノ賣買ヲ爲シタルモノハ宜シク之ヲ詐偽取財ノ罪ニ問フヲ以テ足レリトス然レトモ其鍍金ノ方法ニシテ貨幣ノ眞正ヲ摸擬スルノ度ニ達シタル以上ハ偽造タルコトヲ得ヘキモ決シテ變造タルコトヲ得サルヘシ語ヲ換ヘテ之ヲ言ハヽ鍍金ノ所爲ハ往々偽造タルベキモ決シ

テ變造タルコトヲ得サルナリ

五、現行法ニ於テハ金銀貨ノ僞造變造ト銅貨ノ僞造變造トハ大ニ其刑ヲ異ニセルヲ以テ其ノ區別ニ就テハ往々學者ノ議論ヲ引起セリ而シテ其爭點ノ存スル所ハ常ニ銅貨ニ銀ヲ鍍シ又ハ銀貨ニ金ヲ鍍シタルモノハ其原質タル貨幣ノ變造ヲ以テ問フヘキヤ將タ鍍出シタル貨幣ノ僞造ヲ以テ論スヘキヤ否ニ在リ然ルニ鍍金ノ所爲タル本來僞造タルコトヲ得ヘキモ決シテ變造ノ所爲タルコトヲ得サルハ已ニ前項ニ於テ論述シタル所ノ如クナル以上ハ此等ノ疑點ハ又自ラ消失スヘシト雖銅貨ニ金ヲ鍍シタルトキハ金貨ヲ摸擬スルモノナルヲ以テ之ヲ金貨ノ僞造トナスヘシ其ノ銀ヲ鍍シタルモノハ銀貨ヲ摸擬スルモノナルヲ以テ之ヲ銀貨ノ僞造トナスヘシ

六、現行法ハ僞造變造ノ所爲ヲ罪スルノミナラス仍ホ之ヲ行使シタルモノハ更ニ重キ罪トシテ之ヲ罰スヘキモノト定メタリ而シテ其所謂行使トハ犯人爲メニ其目的ヲ達シ其利益ヲ獲得スルコトヲ要セス其僞造シタル貨幣ヲ以テ貨幣トシテ之ヲ通用セシメタルコトヲ以テ足レリトス

〔犯意〕特ニ惡意ヲ必要トス故ニ僞造變造ノ罪ト僞造變造シテ之ヲ行使スルノ罪トヲ問ハス凡テ眞正ノ貨幣トシテ之

ヲ通用セシムルノ故意ヲ欠クトキハ此犯罪ノ成立スルコトナカルヘシ設ヘハ商業學校等ニ於テ生徒ノ教科用トシテ貨幣ヲ僞造スルモ眞正ノモノトシテ之ヲ行使スルノ意思ナキトキノ如シ

(刑罰)物體ノ種類及ヒ僞造若クハ變造ノ差ニ依リ僞造罪ノ種類及ヒ其刑罰ノ輕重ヲ示スコト左ノ如シ

(甲)僞造變造シテ行使スル罪

一、金銀貨及ヒ政府並ニ銀行ノ紙幣ノ僞造ニ係ルトキハ無期徒刑ニ處シ變造ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス(第百八十二條及ヒ第百八十四條)

二、外國ノ金銀貨及ヒ外國銀行紙幣ノ僞造ニ係ルトキハ有期徒刑ニ處シ變造ニ係ルトキハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス(第百八十三條及ヒ第百八十四條)

三、內國ノ銅貨ノ僞造ニ係ルトキハ輕懲役ニ處シ變造ニ係ルトキハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス(第百八十五條)

(乙)僞造變造ノ罪

貨幣ヲ僞造若クハ變造スルモ未タ行使セサルモノハ前項ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス(第百八十六條)

(丙)僞造變造シテ未タ成ラサルノ罪

僞造變造ノ罪ノ未遂犯及ヒ中止犯ノ場合ニ於テハ前例ノ區別ニ從ヒ各々二等ヲ減ス(同上)

倉富評　刑法第百八十六條ヲ以テ未遂犯ノ特例ニ非スト爲ストキハ偽造已ニ成テ行使ニ著手シ未タ行使ヲ遂ケサル者ハ總則ニ照シ偽造行使ノ刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減スルコトヲ得レトモ偽造已ニ成テ行使ニ著手セサル者ハ第百八十六條ニ依リ一等ヲ減スルニ過キス著者ハ其不權衡ヲ以テ法律ノ罪ト爲スカ將タ行使ニ着手シタルモノハ行使ニ著手セサルモノヨリ輕ク罰ス可キ理由アリト爲スカ

(丁)偽造ノ器械ヲ豫備スルノ罪

變造ノ豫備及ヒ偽造ノ器械ヲ備ヘサル所ノ豫備ノ外單ニ偽造ノ器械ヲ豫備シタルトキハ前例ニ倣ヒ三等ヲ減ス(同上)

(已遂及ヒ未遂)未遂犯罪ハ刑法總則ニ照シ前項ニ示シタル(甲)(乙)(丙)(丁)ノ刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減スヘシ第百八十六條ノ場合ハ必スシモ未遂犯ノ特例ヲ示シタルモノニアラス抑モ偽造變造ノ所爲ハ獨立シタル一箇ノ犯罪ナリ法律ハ偽造變造シテ行使シタルモノヽ刑ニ二等ヲ減スヘキ旨ヲ定メタレトモ特ニ一箇ノ刑ヲ配當スルノ代リニ一等ヲ減スト書シタルモノニ外ナラス偽造ノ罪ハ偽造シテ行使シタル罪ノ豫備ニモアラス又タ其ノ未遂犯ニモアラサレハ恰モ先ツ偽造變造ノ罪ニ對スル刑ヲ定メ偽造變造シテ行使シタルモノハ一等ヲ加フヘキモノト定メタルニ異ナラス故ニ(甲)ノ場合ニ於テハ行使ニ著手シタルトキヲ以テ其未遂トシ(丙)ノ場合ニ於テハ(乙)ノ未遂犯ノ特例ヲ定メタルモノト解セサルヲ得ス何トナレハ未遂犯ノ未遂犯及ヒ中止犯ノ未遂犯ハ法理上之ヲ推定スルコトヲ得サレハナリ

(共犯)我刑法ハ偽造罪ニ就キ特ニ共犯ノ例ヲ設ケタリ即チ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ各一等ヲ減シ其補助ヲ爲シタルモノハ更ニ一等又ハ二等ヲ減シ房屋ヲ給與シタルモ

ノハ二等ヲ減ス(第百八十七條及ロ第百八十八條)

第二節　僞造變造ノ貨幣ヲ受取行使スル罪

僞造變造ノ貨幣ヲ受取行使スル罪ニ三種アリ第一ハ情ヲ知テ受取シ且ツ之ヲ行使スルノ罪第二ハ情ヲ知テ之ヲ受取スルノ罪第三ハ受取ノ際情ヲ知ラサルモ後ニ至リ之ヲ覺知シテ行使スル罪ナリ第一ノ罪ハ僞造變造シ行使シタル者ノ刑ニ照シテ各二等ヲ減シ第二ノ罪ハ各三等ヲ減シ第三ノ罪ハ其行使シタル價格二倍ノ罰金ニ處ス但シ其罰金ハ二圓以下ニ降スコトヲ得サルモノトス(第百九十條及第百九十三條)而シテ此等ノ犯罪タル事頗ル單簡ニシテ別ニ説明ヲ要セス前節ノ理論ヲ以テ容易ニ其疑點ヲ解クコトヲ得ヘシト雖更ニ一二ノ要點ヲ指示スレハ(第一)此三種ノ犯罪ハ孰レモ眞正ノ貨幣トシテ之ヲ行使スルノ惡意アルコトヲ要シ(第二)第百九十條第二項(即チ第二ノ罪)ハ第一ノ罪ノ未遂犯若クハ豫備ニアラス特立シタル別種ノ犯罪ナルヲ以テ其未遂犯ハ總則ノ例ヲ適用スヘキモノトス若シ之ヲ未遂犯ノ特例トスルトキハ第一ノ罪モ亦僞造變造シテ行使シタル罪ノ未遂犯ト云ハサルヲ得サルニ至ルヘシ

上來論述シタル所ヲ以テ僞造ノ大綱原理ヲ論述シタリト信スレトモ尚ホ茲ニ一二ノ注意スヘキ要點ヲ示サン

(第一)第百九十三條ノ罪ノ外僞造罪ハ輕罪ノ刑ニ處スルト

カンペンホルフ氏著獨逸刑法第三五一葉

キト雖六月以上二年以下ノ監視ニ附ス(第百九十一條)ト雖貨幣ヲ僞造シ變造シ又ハ輸入受取スルモノ及ヒ其ノ從犯ニシテ未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免シ從犯ノ外單ニ六月以上三年以下ノ監視ニ附ス(第百九十二條)

(第二)犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ依テ得タル物件ハ總則ニ依リ之ヲ沒收スヘシト雖情ヲ知ラスシテ僞造ノ貨幣ヲ受取シ之ヲ所有スルモ之ヲ沒收スルコトヲ得ス(但シ特別ノ布告ヲ以テ之ヲ沒收スト雖ユ)ト雖此等ノ點ニ就テハ我刑法ノ特ニ未タ完全ナラサルヲ覺フ

第二章　文書僞造ノ罪

文書僞造ノ罪トハ或ル文書ヲ僞造シテ行使スルノ所爲ヲ云フ但シ其文書ハ特ニ法律ニ於テ規定シタルモノニ限ルヘク又タ詔書ニ係ル場合ハ之ヲ行使スルヲ要セス僞造變造若クハ毀棄ノ所爲ヲ以テ其本罪トス

(物體)此犯罪ノ物體タルヘキモノハ官私ノ文書トス

一、法律ニ於テ僞造ノ罪ヲ問フヘキ文書ハ刊行ニ係ルト筆記ニ係ルトヲ問ハス或ル事實ノ存否ヲ證明スル爲メニセルモノタルヲ要ス而シテ又其證明スヘキ事實ハ必スシモ權理義務ノ存否ニ關スルモノト否トヲ問ハスト雖或ル事實ニ對スル信據力ヲ有スルモノニ限ルヘシ信據力ヲ有セサル反古紙若クハ信據力ヲ有ス

ルモ事實ノ存否ニ關係ナキ文書ノ如キハ僞造罪ノ物體タルコトヲ得ス英國法カ繪畫ヲ以テ此犯罪ノ物體タルヘキ文書ニアラストセルハ實ニ其ノ當ヲ得タリ我國ニ於テモ亦文人騷客ノ美術トスル詩文若クハ繪畫ノ如キハ事實ヲ證明スルノ文書トスルコトヲ得サルヘシ

二、文書ニ二種アリ一ヲ官文書トシ一ヲ私文書トス官文書トハ官署若クハ官吏其ノ資格ヲ以テ一定ノ式ニ從ヒ其職權ノ範圍內ニ於テ認メタル文書ヲ云ヒ其ノ他ノ文書ヲ私文書トス（プレスクライプト・フオルム）

（所爲）此犯罪ノ所爲ハ文書ノ僞造變造使用若クハ藥毀トス

一、變造トハ權利又ハ承諾ナクシテ文書ノ信據力ヲ有スルコ必要ナル或ル部分ヲ變更スルヲ云フ故ニ文書中ノ部分ヲ改更スルモ其ノ信據力ヲ害セサル以上ハ之ヲ變造ト云フコトヲ得ス設例ヘハ十圓ノ十ノ字ヲ改テ拾ノ字トシ又ハ誤字ヲ改正スルカ如キハ毫モ信據力ニ關係ヲ及ホスノ點ナカルヘシ又タ淺近ナル一例ヲ示サハ無効ノ證書ヲ變造スル場合ノ如キ其ノ證書ハ本來無効ナルヲ以テ從ツテ信據力ナキハ勿論タルヘキカ故ニ是亦毫モ信據力ヲ害スルモノニアラス英佛ノ學者カ害ヲ生シ若クハ害ヲ生シ得ヘキコトヲ以テ文書僞造罪ニ要スル一條件トスルモ亦此意ヲ指シ